

2024年度
看護学科
シラバス

目次

学修成果(到達目標)	4
カリキュラムマップ	5
カリキュラムツリー	6
2年生 年間予定表	8
2年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
法律入門	11	健康状態別看護Ⅲ	32
生涯学習論	12	成人看護学援助論Ⅰ	34
健康スポーツ科学	13	成人看護学援助論Ⅱ	36
病態治療学Ⅴ(運動器、中枢・末梢神経)	14	老年看護学援助論Ⅰ	38
病態治療学Ⅵ(血液・造血器・免疫)	15	老年看護学援助論Ⅱ	39
病態治療学Ⅶ(呼吸器、感覚器)	16	小児看護学援助論Ⅰ	40
公衆衛生学	17	小児看護学援助論Ⅱ	41
保健医療福祉サービス論	18	母性看護学援助論Ⅰ	43
チーム医療論	19	母性看護学援助論Ⅱ	44
地域・在宅看護援助論Ⅰ	20	精神看護学援助論Ⅰ	46
地域・在宅看護概論Ⅱ	21	精神看護学援助論Ⅱ	47
地域・在宅看護援助論Ⅱ	22	医療安全管理論	49
看護展開論Ⅰ	24	災害看護	50
看護展開論Ⅱ	25	看護研究Ⅰ	51
看護展開論Ⅲ	27	地域・在宅看護論実習Ⅰ	52
健康状態別看護Ⅰ	29	領域横断看護実習	53
健康状態別看護Ⅱ	30		

3年生 年間予定表	56
3年生 シラバス	59

開講科目	頁	開講科目	頁
看護管理論・国際看護	59	小児看護学実習	64
看護研究Ⅱ	60	母性看護学実習	65
地域・在宅看護論実習Ⅱ	61	精神看護学実習	66
成人看護学実習	62	統合実習	67
老年看護学実習	63		

ナンバリング	70
教員一覧	74
実務経験を有する教員一覧	75
オフィスアワー・成績評価	76

看護学科

- 学修成果（到達目標）
- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー

学修成果（到達目標）

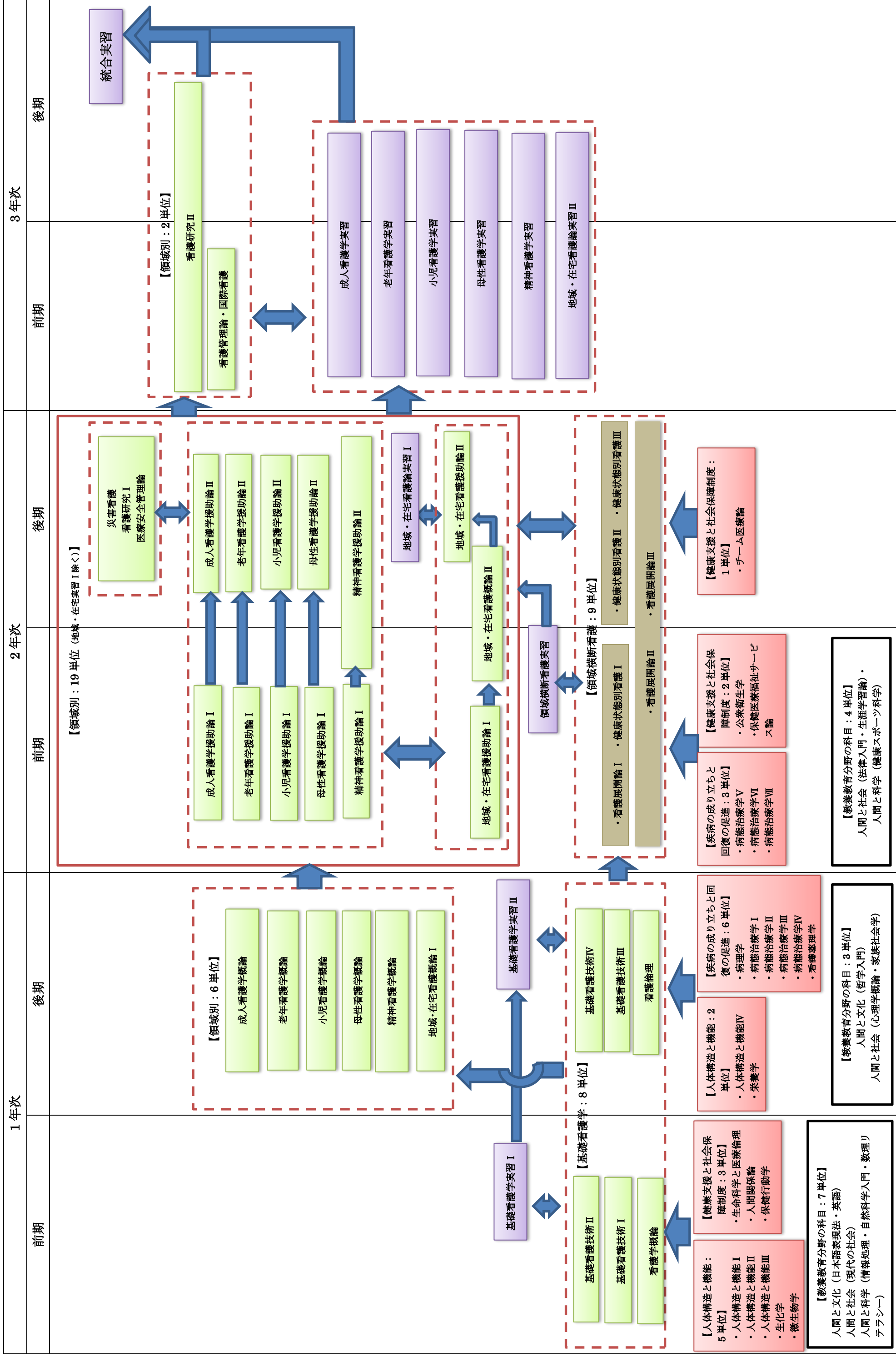
- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ①専門教育の導入・基礎として確かな基礎学力を育て、統合できる能力を身につける。
 - ②教養の涵養によって、異なる文化や社会を尊重していく態度を身につける。
 - ③人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、看護実践の基盤となる能力を身につける。
 - ④科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を身につける。
 - ⑤看護を取り巻く社会の動向や特性を知り、看護職の役割と責任について理解する能力を身につける。

- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場面に対応できる力
 - ①科学的根拠に基づいた臨床判断能力を身につける。
 - ②多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて対象のニーズをとらえ、看護を実践する能力を身につける。
 - ③安全なケア環境を提供する能力を身につける。
 - ④人々の尊厳と権利を擁護し意思決定を支援する能力を身につける。

- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ①援助関係を形成する能力（個人・家族・集団・地域との援助関係・信頼関係、協働関係）を身につける。
 - ②保健・医療・福祉チームにおいて多職種との連携・協働する能力を身につける。
 - ③ケアへ参画する能力を身につける。

- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
 - ①看護の専門職として価値と専門性を発展させる能力を養う。
 - ②生涯にわたり研鑽し続ける能力を養う。

- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ①人々の暮らしに影響する地域の特性に関連する文化や社会的背景を理解する能力を養う。
 - ②人々の暮らしを取り巻く環境と健康の関連について、現状と課題を理解する能力を養う。
 - ③災害看護を理解する能力を養う。
 - ④地域包括ケアシステムにおける看護活動の在り方について理解する能力を養う。



看護学科

2年生

- 年間予定表
- シラバス

2024年度 看護学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土					
4月		1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4	1	5	1	6	
	7	8	1	9	1	10	1 健康診断	11	2	12	2	13	
	14	15	2	16	2	17	2	18	3 (合同体育祭)	19	3	20	
	21	22	3	23	3	24	3	25	4	26	4	27	
	28	29		30	4	1	4	2	5	3		4	
5月	5	6		7	5	8	5	9	6	10	5	11	
	12	13	4	14	6	15	6	16	7	17	6	18	
	19	20	5	21	7	22	7	23	8	24	7	25	
	26	27	6	28	8	29	8	30	9	31	8	1	
6月	2	3	7	4	9	5	9	6	10	7	9	8	
	9	10	8	11	10	12	10	13	11	14	10	15	
	16	17	9	18	11	19	11	20	12	21	11	22	
	23	24	10	25	12	26	12	27	13	28	12	29	
	30	1	11	2	13	3	13	4	14	5	13	6	
7月	7	8	12	9	14	10	14	11	15	12	14	13	
	14	15		16	15	17	15	18	月13	19	15	20	
	21	22	定期試験	23	定期試験	24	定期試験	25	定期試験	26	定期試験	27	
	28	29		30		31		1		2	不合格者発表	3	
8月	4	5		6		7		8	再試験	9	再試験	10	
	11	12		13		14		15		16		17	
	18	19	領域横断看護実習	20	領域横断看護実習	21	領域横断看護実習	22	領域横断看護実習	23	領域横断看護実習	24	
	25	26	領域横断看護実習	27	領域横断看護実習	28	領域横断看護実習	29	領域横断看護実習	30	領域横断看護実習	31	
9月	1	2	領域横断看護実習	3	領域横断看護実習	4	領域横断看護実習	5	領域横断看護実習	6	領域横断看護実習	7	
	8	9	領域横断看護実習	10	領域横断看護実習	11	領域横断看護実習	12	領域横断看護実習	13	領域横断看護実習	14	
	15	16		17	領域横断看護実習	18	領域横断看護実習	19	領域横断看護実習	20	領域横断看護実習	21	領域横断看護実習
	22	23		24		25	オリエンテーション	26	1	27	1	28	
	29	30	地域・在宅看護論実習Ⅰ										

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 看護学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土				
10月				1 地域・在宅看護論実習Ⅰ	2 地域・在宅看護論実習Ⅰ	3 地域・在宅看護論実習Ⅰ	4 地域・在宅看護論実習Ⅰ	5				
	6	7	1	8	1	9	1	10	2	11	2	12
	13	14		15	2	16	2	17	3	18	3	19 (保護者会)
	20	21	2	22	3	23	3	24	4	25	4 せいよう祭準備	26 せいよう祭
	27	28	3	29	4	30	4	31	5	1	5	2
11月	3	4		5	5	6	5	7	6	8	6	9
	10	11	4	12	6	13	6	14	7	15	7	16
	17	18	5	19	7	20	7	21	8	22	8	23
	24	25	6	26	8	27	8	28	9	29	9	30
12月	1	2	7	3	9	4	9	5	10	6	10	7
	8	9	8	10	10	11	10	12	11	13	11	14
	15	16	9	17	11	18	11	19	12	20	12	21
	22	23	10	24	12	25	12	26	13	27	13	28
	29	30		31		1		2		3		4
1月	5	6	11	7	13	8	13	9	14	10	14	11
	12	13		14	14	15	14	16	15	17	15	18
	19	20	12	21	15	22	15	23	月13	24	月14	25
	26	27	15	28	予備日	29	予備日	30	予備日	31	定期試験	1
2月	2	3	定期試験	4	定期試験	5	定期試験	6	定期試験	7		8
	9	10		11		12		13		14	不合格者発表	15
	16	17		18		19		20		21		22
	23	24		25	再試験	26	再試験	27		28		1
3月	2	3		4		5		6		7		8
	9	10		11		12		13		14		15
	16	17		18	(卒業式)	19		20		21		22
	23	24		25		26		27		28		29
	30	31										

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-04					
	●										
科目名	法律入門				単位認定者	鈴木 翔太		評価の方法	授業内課題	80	%
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		受講態度	20	%
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。										
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。										
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 聞き慣れない用語や概念が多いため、復習を中心に取り組むこと。 法律用語と日常用語の違い、授業内で扱った事例や問題は、重点的に復習すること。その際、結論だけでなく理由も説明できるようにしておくこと。 										
回	授業計画					準備学修					
1	法律の種類と法律を学ぶ意味 (事例問題についてディスカッションを実施する)					前回講義の内容について適宜小テストを実施するため、レジュメを参照して復習すること (30分程度)					
2	憲法、民法、商法のそれぞれ特徴と違い (事例問題についてディスカッションを実施する)										
3	憲法(1) 基本的人権 —平等権、精神的自由等— (事例問題についてディスカッションを実施する)										
4	憲法(2) 基本的人権 —経済的自由、その他の人権— (事例問題についてディスカッションを実施する)										
5	憲法(3) 人権総括、統治機構 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
6	民法(1) 総則 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
7	民法(2) 物権 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
8	民法(3) 債権(契約等) (事例問題についてディスカッションを実施する)										
9	民法(4) 債権(不法行為) (事例問題についてディスカッションを実施する)										
10	民法(5) 親族・相続 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
11	消費者法 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
12	交通法 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
13	ネットに関する法的課題(1) SNSの法的課題 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
14	ネットに関する法的課題(2) コンテンツ・ネット取引等の法的課題 (事例問題についてディスカッションを実施する)										
15	まとめ(小テスト)										
教科書	特に指定しない。必要に応じてレジュメや資料を配付する。										
参考文献	授業内で適宜紹介する。										
備考	授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。授業内課題は各回の小テストで評価する。なお、小テストは前回までの授業内容から出題し、授業内で模範解答を配布した上で解説(適宜フィードバック)を行う。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

公認会計士として、法定監査(金融商品取引法、会社法等)、株式上場支援、内部統制構築支援等の業務に従事。様々なビジネス現場での経験から、具体的な事例を紹介して、分かりやすく解説する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSO-01				
				●						
科目名	生涯学習論				単位認定者	石井山 竜平		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	生涯にわたり学び続けることの大切さや必要性を理解するために、生涯学習の変遷や成人教育学の概念、自己教育力の向上のための理論などを学び、地域社会への貢献に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。									
学修者への期待等	この講義では、今日、地域で展開されているさまざまな学習・運動の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ直していく。社会問題全般に対する関心を持って、臨んでいただきたい。									
回	授業計画				準備学修					
1	成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際①高齢者の学びに着目して				授業の展開に応じて、授業中に指示する(30分～1時間程度)					
2	成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際②子育て世代の学びに着目して									
3	社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向①社会教育法を中心に									
4	社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向②ユネスコの議論をもとに									
5	社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革									
6	社会教育・生涯学習の提供主体の多元化									
7	変革の時代をきりひらく学びと自治の創造									
8	東日本大震災と社会教育									
教科書	基本、こちらで用意した資料を基に展開する。									
参考文献	『転換期の地方自治と社会教育』辻浩・細山俊男・石井山竜平編、自治体研究社									
備考	授業内で2～3回程度、小レポートを行う予定であり、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-0-HSC-03				
	●									
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	安達 博子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		16 時間	受講態度
							授業回数		8 回	
授業の概要	健康は生活の質向上に不可欠な要素であり健康な生活を送るために必要な「運動」を実践することの重要性などを学び、スポーツを通して健康の意義や健康づくりを理解するために必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	①身体の状態や年齢によって「健康」のとらえ方が変わることを理解し、生涯にわたって「健康」な生活を送るために必要な知識を身につけ、実践できるようにする。 ②運動の大切さを理解し、運動不足が将来の自分へどのような影響を及ぼすかを考える。 ③運動やスポーツを行う楽しさを知り、人と接すること、協力し合うこと、コミュニケーションの取り方などを身につける。									
学修者への期待等	①目的意識を持ち、積極的な姿勢で授業に臨む。 ②仲間と協力する気持ちと自分自身と仲間の「安全」を常に考慮し、それを実践する。 ③授業時に行うストレッチング・ラジオ体操・簡単な筋トレを日課として実施するよう心がけ、生涯にわたる健康維持増進に心がける。									
回	授業計画							準備学修		
1	【講義】 ①授業ガイダンス（運動とスポーツの違い・授業の進め方・心構え・準備物について・健康状態の確認） ②生活習慣と健康（食事・肥満と痩せ・運動・喫煙・飲酒・性に関する問題）							教室	☆事前に配布された講義用資料は第1回の授業時まで読んで予習しておくこと。（20分程度）	
2	【講義】 ①運動の効果と運動不足の影響 ②高齢者の運動不足の影響 ③体力とは								☆授業時に出された課題は、できるだけ詳しく調べまとめること。（1時間程度）	
3	【実技】 ①ラジオ体操（正しい体操を覚えよう）・ストレッチング・簡単な筋トレ ②ゲームを通して仲間を知ろう・作ろう ③身体づくりのための簡単な運動をやってみよう								☆配布された資料を読み、復習プリントを解答すること。（2時間程度）	
4	【実技】 バasketボール（ツーマンパスやドリブルからのシュート）									
5	【実技】 バasketボール ゲーム（5対5）（3×3）									
6	【実技】 バレーボール（ランニングパス・サーブの練習）（ゲーム）									
7	【実技】 バレーボール（グループを作りランニングパス・サーブの練習）（ゲーム）									
8	【実技】 身体づくりのための運動や立位が難しい人のための体操をラジオ体操を利用して考えてみよう									
教科書	なし									
参考文献	なし									
備考	★状況によっては種目や実施時期を変更することがある。 ★第3回～8回は実技のため、2クラスに分けて体育館で実施する。 体育館シューズ・運動着・水分補給用の水を準備する。 ★授業内課題はレポートで評価し、最終授業時に返却及びコメントを付してフィードバックを行う。 ★ラジオ体操・ストレッチング・簡単な筋トレは、毎授業時に行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-06				
	●									
科目名	病態治療学Ⅴ（運動器、中枢・末梢神経）				単位認定者	平山 和美 佐野 徳久	評価の方法	試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数		1 単位		
				授業形態	講義	授業時間数		20 時間		
						授業回数	10 回			
授業の概要	運動機能障害（骨・関節疾患、筋肉・神経筋接合部疾患）、神経機能の障害（中枢神経系疾患、末梢神経系疾患）の病態と診断・治療について学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 骨・関節の疾患の病態と診断・治療について説明できる 筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療について説明できる 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 末梢神経系の疾患の病態と診断・治療について説明できる 									
学修者への期待等	運動器疾患、神経系疾患は外傷、変性疾患、炎症性疾患、腫瘍など多岐に渡ります。教科書に基づいた復習を行うことが予習以上に重要ですので、講義後30分程度復習して下さい。									
回					準備学修			担当		
1	【遠隔（オンデマンド）】 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 （骨折、脱臼、捻挫、骨粗鬆症）				成人看護学[10] 第5章：I ABC・II D （第2章：A、第4章：C、第6章： CEFGの関連項目） 一読しておいて下さい（30分程度）			佐野 徳久		
2	【遠隔（オンデマンド）】 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 （腫瘍、変形性関節症）				成人看護学[10] 第5章：II B③・C （第2章：B、第6章：G④） 一読しておいて下さい（30分程度）			佐野 徳久		
3	【遠隔（オンデマンド）】 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 （腰痛症、炎症性疾患）				成人看護学[10] 第5章：II B①②・H （第2章：C、第3章：D、第4章：C、 第6章：AGの関連項目） 一読しておいて下さい（30分程度）			佐野 徳久		
4	筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療 （筋ジストロフィー、重症筋無力症）				成人看護学[7] 第5章：D 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
5	【遠隔（オンデマンド）】 中枢神経系の疾患の病態と診断・治療（脊髄損傷）				成人看護学[10] 第5章：I D （第2章：C、第3章：D、第6章：G ③） 一読しておいて下さい（30分程度）			佐野 徳久		
6	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療（感染症、腫瘍）				成人看護学[7] 第5章：A②・B⑤・F 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
7	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療（脳血管障害）				成人看護学[7] 第5章：A① 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
8	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療（頭蓋内圧亢進症、頭部外傷）				成人看護学[7] 第5章：A③ 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
9	中枢神経系の疾患の病態と診断・治療（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脱髄疾患）				成人看護学[7] 第5章：E 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
10	末梢神経系の疾患の病態と診断・治療（ギラン・バレー症候群、圧迫性神経障害、顔面神経麻痺）				成人看護学[7] 第5章：C 一読しておいて下さい（30分程度）			平山 和美		
教科書	『系統看護学講座 成人看護学[7] 脳・神経』井手隆文他著、医学書院 『系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器』田中栄他著、医学書院									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師としての臨床実務経験を生かして、医学的な内容を理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-07				
	●									
科目名	病態治療学VI (血液・造血器・免疫)				単位認定者	田林 暁一		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
						授業回数	10 回			
授業の概要	造血機能の障害(血液・造血器の疾患)、免疫機能の障害(自己免疫疾患、アレルギー性疾患の病態と診断・治療、免疫低下に関連する疾患)の病態と診断・治療を学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 自己免疫疾患について説明ができる。2. アトピー性皮膚炎、食物アレルギーについて説明ができる。3. 小児気管支喘息、老化と免疫について説明ができる。4. 血液成分と貧血について説明ができる。5. 出血と止血について説明ができる。6. 出血性疾患と造血器腫瘍について説明ができる。7. 浮腫、水分補給について説明ができる。8. 感染症、食中毒について説明ができる。9. 消毒法、手洗い法について説明ができる。									
学修者への期待等	各講義に際し、授業計画の予習、および講義後1~2日間で復習をしてください。予習、および復習は反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	自己免疫疾患の病態と診断・治療、反転授業				第1回講義内容の30分間の予習					
2	アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの病態と診断・治療、反転授業				第2回講義内容の30分間の予習、および第1回講義の30分間の復習					
3	小児気管支喘息、老化と免疫、フレイル・サルコペニアの病態と治療、反転授業				第3回講義内容の30分間の予習、および第2回講義の30分間の復習					
4	血液の組成と働き、反転授業				第4回講義内容の30分間の予習、および第3回講義の30分間の復習					
5	貧血、出血の病態と診断・治療、反転授業				第5回講義内容の30分間の予習、および第4回講義の30分間の復習					
6	出血、出血に対する対応、止血の病態と診断・治療、反転授業				第6回講義内容の30分間の予習、および第5回講義の30分間の復習					
7	出血性疾患、造血器腫瘍の病態と診断・治療、反転授業				第7回講義内容の30分間の予習、および第6回講義の30分間の復習					
8	浮腫の病態と診断・治療と水分補給、反転授業				第8回講義内容の30分間の予習、および第7回講義の30分間の復習					
9	感染症、食中毒の病態と診断・治療、滅菌法・消毒法、反転授業				第9回講義内容の30分間の予習、および第8回講義の30分間の復習					
10	手洗い法、外科的感染症の病態と診断・治療、反転授業				第10回講義内容の30分間の予習、および第9回講義の30分間の復習					
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症』岩田健太郎他著、医学書院									
参考文献	『標準外科学』北島正樹監修、医学書院									
備考	講義内容の学修を授業以外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師としての臨床経験を生かして、免疫、免疫疾患、血液疾患、および感染症について医学的に理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-PRD-08				
	●									
科目名	病態治療学Ⅶ（呼吸器、感覚器）				単位認定者	田林 暁一		試験（筆記）	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	呼吸機能障害（呼吸器系の疾患の病態と診断・治療）、感覚器系機能障害（視覚障害、鼻・頭・喉頭の障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療などを学び、看護実践の臨床判断に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	呼吸器疾患、感覚器系疾患（視覚障害、鼻・咽頭・喉頭障害、耳・聴覚障害、皮膚障害）の病態と診断・治療を学ぶ。									
学修者への期待等	各講義に際し、授業計画の予習、及び講義後1～2日目で復習を行ってください。呼吸器疾患では予習、及び復習をを反転授業で活用し、理解を深めていきたいと考えているので、予習・復習の習慣をつけてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	肺疾患（呼吸器感染症）の病態と診断・治療				第1回講義内容の30分間の予習			田林 暁一		
2	肺疾患（肺腫瘍、肺がん）の病態と診断・治療、反転授業				第2回講義内容の30分間の予習、第1回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
3	肺疾患（換気障害、気胸、肺血栓塞栓症、肺高血圧症）の病態と診断・治療、反転授業				第3回講義内容の30分間の予習、第2回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
4	肺疾患（胸膜中皮腫、縦郭腫瘍、胸部外傷、急性呼吸促進症候群、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群）の病態と診断・治療、反転授業				第4回講義内容の30分間の予習、第3回講義内容の30分間の復習			田林 暁一		
5	聴覚・平衡感覚の障害の病態生理、診断、治療（中耳炎・内耳炎・めまい・メニエール病・難聴）				外耳、中耳、内耳の構造と機能について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			大島 英敏		
6	嗅覚・味覚・発声・嚥下の障害の病態生理、診断、治療（鼻出血・鼻炎・副鼻腔炎・扁桃炎・悪性腫瘍）				鼻腔や口腔、咽頭・喉頭の構造と生理的な役割について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			大島 英敏		
7	皮膚の障害Ⅰ（皮膚生理学、湿疹・アトピー性皮膚炎、脱毛症、帯状疱疹・疥癬）				資料に基づいて復習してください。（30分程度）			藤村 卓		
8	皮膚障害Ⅱ：小児皮膚感染症、皮膚悪性腫瘍熱傷・褥瘡、熱傷				資料に基づいて復習してください。（30分程度）			藤村 卓		
9	視覚の障害の病態生理、診断、治療（近視・老視・色覚異常・角膜炎・結膜炎・白内障）				機能の障害（屈折、調節、色覚）部位別疾患（角膜、結膜、白内障）について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			布施 昇男		
10	視覚の障害の病態生理、診断、治療（網膜剥離・緑内障・網膜色素変性・糖尿病性網膜症）				部位別疾患（網膜、硝子体、水晶体疾患、緑内障）について、教科書の該当するページを予習してください。（30分程度）			布施 昇男		
教科書	『系統看護学講座 専門分野、成人看護学（2）呼吸器』浅野浩一郎他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉』小松浩子他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼』大鹿哲郎他著、医学書院									
参考文献	『標準外科学』北島正樹監、医学書院									
備考	講義内容の学修を授業外でも行わせ、反転授業を行い、講義内容の理解と修得を高める。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

医師としての臨床経験を生かして臨床に即した医学を教育・理解させる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-04				
	●									
科目名	公衆衛生学				単位認定者	山本 玲子		試験(レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	公衆衛生の概念や予防医学的視点、疫学と保健統計および国や地方自治体行政や市民組織など役割と法律や施策とその運用(地域保健、母子保健、精神保健、学校保健、その他の保健活動)などについて学び、実際の公衆衛生活動に対応できる基礎的知識を身につける。									
到達目標	健康事象を人間集団の特性(性・年齢・職業・教育など)と環境(地域・所属社会・自然環境など)との関わりで説明できる。疾病予防・健康維持増進のための健康教育に資する健康行動変容理論を理解する。健康問題を把握し、解決する疫学的手法や公衆衛生活動の方法論、行政施策の基礎を説明できる。									
学修者への期待等	まずテキストの授業該当章節のPointに目を通し、詳細は教科書で確認して授業に臨んでください。事後には、授業でのキーワード(令和5年版看護師国家試験出題基準も教示します)についてテキスト・授業内資料・図書館・信頼できるweb検索情報源などを用い、理解を確かなものにする、知識やデータを読み解き構成する力をよりよく身につけることができます。									
回	授業計画				準備学修					
1	健康の概念(主観的・客観的/個別・集団)を理解し、公衆衛生学の概念と公衆衛生活動の考え方を学ぶ。公衆衛生の歴史と現在の国内外の健康問題を把握する。				【事前】教科書 第1章 公衆衛生学序論を予習 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は自分で調べる・次回授業内質問事項とするなど整理(事前15分事後15分で概ね30分)					
2	行政の仕組みと衛生法規、地域公衆衛生活動における組織・健康危機管理とソーシャルキャピタル、健康を測るものさし(人口指標、保健統計など)の意味と現状を学ぶ。				【事前】教科書 第2章 地域保健―地域住民の健康と行政の役割、第4章 保健統計を予習する 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は自分で調べる・次回授業内質問事項とするなど整理(事前事後で概ね1時間)					
3	環境保健では、ミクロとマクロをつなぐ細胞レベルから地球・宇宙レベルまでの幅広い内容で、衣食住、人の健康(内的環境も含め)と環境(生態系、自然環境、社会文化歴史的環境を含む)との関りを理解する。				【事前】教科書 第3章 環境と健康―環境保健 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は自分で調べる・次回授業内質問事項とするなど整理(事前15分事後15分で概ね30分)					
4	疫学の概念・定義の変遷と健康問題解明・予防の道筋をさがす手段としての疫学手法(健康問題を扱う統計学)を学ぶ。臨床疫学の研究方法と医療の基礎となるエビデンスレベルには関連があることを理解する。				【事前】教科書 第5章 疫学―健康状態・疾病の測定と評価を予習 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は自分で調べる・次回授業内質問事項とするなど整理(事前事後で概ね1時間)					
5	生活習慣病予防のために必要な幼いころからの良い健康行動・避けるべき発症要因について学ぶ。また、働く人々の健康と安全を守るために大切な法・対策など生活者の健康増進について理解する。				【事前】教科書 第6章 疾病予防と健康管理―生活習慣の現状と対策、第8章-6 産業保健―働く人々の健康 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は自分で調べる・次回授業内質問事項とするなど整理(事前15分事後30分で概ね45分)					
6	生活習慣病(がん、心臓病、脳卒中など)と感染症、難病、歯科保健などの疫学特性からみた社会における位置づけ、および精神保健について理解を深める。				【事前】教科書 第7章 主要疾患の疫学と予防、第3章 環境保健1.E健康に影響を与える生物的環境要因、第8章3.C障害者福祉を予習(事前事後とも各15分) 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は調べる・次回授業内質問事項にするなど整理(事前15分事後30分で概ね45分)					
7	保健・医療・福祉の制度を学ぶとともに、高齢者の特性に基づく健康管理の認識とケア・介護など公衆衛生看護に関連する社会システムを理解する。				【事前】教科書 第8章 保健・医療・福祉の制度1.社会保障概念 2.医療制度 3.福祉制度 5.成人保健・高齢者保健・介護(所要時間：事前事後で概ね30分) 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習。不明点は調べる・次回授業内質問事項にするなど整理(事前15分事後30分で概ね45分)					
8	母体と胎児期から児童・生徒・学生と呼ばれるライフステージにおける健康を扱う公衆衛生活動が、母子(親子)保健と学校保健である。このライフステージにおける健康問題の把握と行政による健康保持・増進のための公衆衛生施策や根拠法などを学び理解する。				【事前】教科書 第8章 保健・医療・福祉の制度4.母子保健 7.学校保健 【事後】教科書、配布あるときはその資料、参考文献などで復習(事前15分事後30分で概ね45分)					
教科書	『新編 衛生・公衆衛生学』山本玲子監、熊谷優子著、アイ・ケイコーポレーション									
参考文献	厚生省の指標 増刊『国民衛生の動向 2023/2024』(財)厚生労働統計協会									
備考	授業内課題については授業内質問、確認テストなどで評価し、適宜フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-05				
	●									
科目名	保健医療福祉サービス論				単位認定者	末永 カツ子		試験（レポート）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人々の生活を支える保健医療福祉サービスの変遷と制度の概要と活用方法および保健医療制度などを学び、保健医療福祉分野でサービスを提供する多機関・多職種との連携・協働に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の生活を支える保健医療福祉制度の概要を理解する。 2. 保健医療福祉制度・サービスの活用方法を理解する。 3. 保健医療制度・サービスを提供する多機関・多職種との連携・協働の必要性を理解する。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉・社会保障の歴史から分野別制度の理解が深まることを期待する。 ・保健医療福祉を担う行政機関の活動や具体的な社会福祉サービスを理解する。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の変化と社会保障制度 ・社会保障・社会福祉の動向 				第2章を読み最も関心を持ったことについて、その理由や関連する体験等をメモし(300字程度)、講義に臨む。メモは講義開始時に提出する。			末永 カツ子 手塚 有希子		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・医療保障制度の法律、国民皆保険、健康保険、医療保険制度のしくみ 				第3章A、B、C、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			佐藤 英仁		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者医療制度のしくみ ・保険診療のしくみ(診療報酬・薬価基準) ・国民医療費の動向・構造 				第3章D、E、F、G、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			佐藤 英仁		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度のしくみと課題 				第4章A、B、C、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			佐藤 英仁		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者保健福祉のシステムの現状と課題(講義&グループワーク) 				第7章A、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			末永 カツ子 手塚 有希子		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・障害保健福祉システムの現状と課題(講義&グループワーク) 				第7章B、C、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			末永 カツ子 手塚 有希子		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・児童家庭福祉のシステムと課題(講義&グループワーク) 				第7章C、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			末永 カツ子 手塚 有希子		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障制度と法律(講義&グループワーク) 				第1章A、B、を読み、講義に臨む。(概ね1時間)			佐藤 英仁 末永 カツ子 手塚 有希子		
教科書	『系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 [3]』 福田素生著他、医学書院									
参考文献	『日本の医療はなぜ弱体化したのか 再生は可能なのか』本田宏編著、合同出版 『アフターコロナの公衆衛生』末永カツ子編、佐藤英仁他著、自治体研究社									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題はレポートで評価し、授業日ごとに提示する。次回講義時に提出を求め、フィードバックする。 ・試験(レポート)の課題及び提出期日は授業内で提示する。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健福祉分野の行政機関にて担当してきた保健医療福祉サービスに係る知識を活かし講義を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-1-HSS-06				
			●							
科目名	チーム医療論				単位 認定者	阿部 春美 桑田 恵美子		試験 (レポート)	45 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題	55 %
						授業時間数	20 時間			
授業の概要					授業形態	演習	授業回数	10 回		
	チーム医療の概念、チーム医療に参加する専門職の役割、職種間の相互理解の必要性について学び、協働してチーム医療の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. チーム医療の概念及びチーム医療に参加する専門職の役割について説明できる 2. 職種間の相互理解を深めながら、連携・協働してチーム医療に参加する姿勢を身につける 3. 看護職と他職種の共通性を理解し、対象者志向の倫理観をもつ 4. チーム医療における看護の専門性について説明できる									
学修者への 期待等	チーム医療とは、「医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」である。それは病院内にとどまらず、対象が戻る在宅療養生活・地域も含めて専門職が連携・協働して、健やかに安心して生活できるよう支援することが求められる。この科目を通してチーム医療について考えを深め、多職種連携の意義、看護職と他職種の共通性を理解し、対象者志向の倫理観について考えを深めることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 チーム医療とは チーム医療の起源、チーム医療の要素とその関連性				【事後】 病院の専門職の専門性と活動内容について調べる (概ね30分)			阿部 春美		
2	【講義】 チーム医療における患者医療者関係							阿部 春美		
3	【グループワーク】 チーム医療における多職種の役割と責任①				【事後】 レポート課題① 「病院の専門職の専門性と活動内容について」 (概ね5時間)			阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
4	【発表】 チーム医療における多職種の役割と責任②							阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
5	【講義】 チーム医療におけるの倫理性と看護の専門性				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			桑田 恵美子		
6	【講義】 病院内におけるチームアプローチの実際				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			千葉 美枝 阿部 春美		
7	【講義】 退院から在宅療養生活に向けた多職種連携				【事後】 授業内の学び (概ね30分)			畠山 稔 桑田 恵美子		
8	【講義】 地域包括ケアシステムでの多職種連携				【事後】 Educational Video online 「事例から学ぶ地域包括ケアシステム 4巻」視聴後、授業内の学び及び視聴後の学びの記載 (概ね2時間)			結城 修子 桑田 恵美子		
9	【グループワーク】 チーム医療・専門職連携における看護師の役割①							阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
10	【発表】 チーム医療・専門職連携における看護師の役割② チーム医療論のまとめ				【事後】 レポート課題② 「チーム医療・専門職連携における看護職の役割」 (概ね5時間)			阿部 春美 桑田 恵美子 高橋 由美		
教科書	各回で資料配付									
参考文献	『チーム医療とは何か』細田満和子著、日本看護協会出版会 『チーム医療論』鷺野和美編著、医歯薬出版 『チーム医療の推進について』厚生労働省: https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf 『事例から学ぶ地域包括ケアシステム 4巻』Educational Video online									
備考	※授業内課題は、「レポート課題①: 45%」、「授業内の学び: 10%」で評価し、次回授業時にフィードバックする。 ※授業内課題 : レポート課題①「病院の専門職の専門性と活動内容について」 (45%) ※試験 (レポート) : レポート課題②「チーム医療・専門職連携における看護職の役割」 (45%)									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を生かし、チーム医療について理解が深められるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-02				
●					●					
科目名	地域・在宅看護援助論 I				単位認定者	小林 淳子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	地域社会の特性や文化と健康との関連や課題を導き出す方法、地域包括・在宅ケアシステム、療養の場の移行に伴う看護・ケアマネジメントの方法、在宅ケアを支える制度と社会資源などについて学び、地域の人々や様々な機関・専門職種との連携・協働に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 地域で生活する地域・在宅看護の対象者と家族について理解を深める。 2. 地域包括ケアシステムの中での連携・協働について理解できる。 3. 在宅ケアを支える制度と社会資源・ケアマネジメントの方法について理解できる。 4. 地域アセスメントの意義を理解し方法の基礎を修得できる。									
学修者への期待等	地域・在宅看護概論 I に基づき、地域・在宅看護活動の基本を学ぶ科目です。学修内容が多岐に渡るため予習復習を行い、グループワーク・フィールドワーク等の演習にも積極的に臨んでください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域・在宅看護援助論 I ガイダンス 暮らしの基盤としての地域の理解 地域アセスメント①地域アセスメントの意義・方法				3章-1、地域・在宅看護概論 I 8回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			小林 淳子		
2	地域アセスメント② <フィールドワーク> 地区視診				1回目の授業内容を確認して臨み、配布資料に基づき復習して理解を深めてください (各30分程度)			小林 淳子 真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子		
3	地域アセスメント③ <グループワーク> 地区視診の情報整理・考察				1・2回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、授業を復習して理解を深めてください (1時間程度)					
4	地域アセスメント④ <グループワーク> 既存資料の収集				1回目の授業内容を確認して臨み、配布資料に基づき復習して理解を深めてください (各30分程度)					
5	地域アセスメント⑤ <グループワーク> 既存資料の情報整理・考察				1・3回目の授業内容を確認して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)					
6	地域アセスメント⑥ <グループワーク> 地区視診と既存資料との統合				3・5回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、発表の準備をしてください (1時間程度)					
7	地域アセスメント⑦ 学修成果発表 まとめ				6回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)					
8	地域・在宅看護におけるケアマネジメント (介護保険)				3章-5について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			高橋 由美		
9	地域・在宅ケアを支える諸制度と社会資源				4章-1~5について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			高橋 由美		
10	障がい者に関連する法律および難病法				4章-6~7について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			真溪 淳子		
11	精神障がい者を支えるケアマネジメントの実際				9回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)			坂本 由郁 小林 淳子		
12	こどもの在宅療養を支える制度と社会資源				4章-8について予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			真溪 淳子		
13	こどもを支えるケアマネジメントの実際				11回目の授業内容を確認して臨み (30分程度)、【授業内課題】レポートを提出してください (1時間程度)			平原 真紀 小林 淳子		
14	人々の暮らしと地域・在宅看護 (含 事例検討)				1章-1, 2、地域・在宅看護概論 I 2回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			小林 淳子		
15	地域・在宅看護の対象者と家族の理解 (含 事例検討)				2章-1, 2, 3、地域・在宅看護概論 I 3回目資料を予習して臨み、授業を復習して理解を深めてください (各30分程度)			小林 淳子		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス 『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会									
備考	授業内課題は7・11・13回目のレポート (各10%)、14・15回目の事例検討記録 (10%) で評価し、適宜フィードバックする。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										
保健師 (自治体等に5年以上勤務) としての実務経験を生かし、地域で生活する人々を支援する看護について理解が深められるように教授する。										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-03				
	●				●					
科目名	地域・在宅看護概論Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	地域での療養を支える看護の目的、役割・機能、基本理念、倫理的視点、様々な対象のケアニーズや実践に必要な基礎的知識、療養者と家族を単位とする家族看護の必要性・役割について学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 地域療養を支える看護の目的、役割機能、基本理念について説明できる 2. 地域で療養する様々な対象のケアニーズや必要な看護について説明できる 3. 在宅療養を支える看護活動の実際を理解し、事例を通して必要な看護支援を考察できる									
学修者への期待等	地域・在宅看護概論Ⅰ、地域・在宅看護援助論Ⅰに引き続き、地域・在宅看護活動の根幹となる科目です。また、地域・在宅看護論実習Ⅰ、地域・在宅看護援助論Ⅱ、地域・在宅看護論実習Ⅱに関連する科目です。十分に予習復習を行い、積極的に学ぶ姿勢で臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域・在宅看護概論Ⅱ授業ガイダンス 在宅療養を支える看護 ①目的・役割機能・基本理念				1章-3～6について予習復習する（1時間）、学修カードのまとめ			高橋 由美		
2	在宅療養を支える看護 ②様々な対象のニーズ				2章-1～3について予習復習する（1時間）、学修カードのまとめ			高橋 由美		
3	在宅療養を支える看護 ③療養の場の移行に伴う看護				3章-3について予習復習する（1時間）小テストに取り組む			高橋 由美		
4	在宅療養を支える看護活動①訪問看護ステーション				5章-1～2について予習復習する（1時間）、学修カードのまとめ			高橋 由美		
5	在宅療養を支える看護活動②訪問看護サービスの展開				5章-3～4について予習復習する（1時間）、小テストに取り組む			高橋 由美		
6	在宅療養を支える看護活動③訪問看護ステーションの実際				課題レポート提出（詳細は授業で説明する）			庄司 玲美 高橋 由美		
7	在宅療養を支える看護活動④事例検討・グループワーク				課題レポートに取り組む（概ね2時間）			高橋 由美		
8	在宅看護における健康危機管理 まとめ				6章-1～2について予習復習する（1時間）、学修カードのまとめ			高橋 由美		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディカ出版									
参考文献	『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題はレポート課題（20%）小テスト（10%）授業後感想（10%）で評価する。 授業内課題は講義時にフィードバックする。 小テスト、学修カードは講義時にフィードバックする。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師(病院等に5年以上勤務)として、地域・在宅看護(訪問看護・ケアマネージャー)の実務経験を活かし、具体例をあげながら分かりやすく説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-04				
	●	●			●					
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ			単位認定者	高橋 由美		試験(筆記)	60 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内 課題	40 %
					授業形態		演習		授業時間数	46 時間
							授業回数	23 回		
授業の概要	地域包括ケアシステムの対象（脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、在宅で療養する障がい者・医療的ケア児、ターミナル期の療養者）のケアニーズや、多様な場や状況に応じた看護支援方法および在宅看護におけるケア（在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）の原則や援助方法を学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> さまざまな事例（脳血管疾患療養者、認知症高齢者、在宅難病療養者、在宅で療養する障がい者・医療的ケア児、ターミナル期の療養者）から在宅療養者とその家族や環境を理解し、状況に応じた看護支援方法について説明できる 在宅看護におけるケア（在宅経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）の原則や援助方法について説明できる。 									
学修者への期待等	在宅看護は対象者と家族の尊厳のある生活を支える個別ケアである。従ってプライバシーを守ることやあらゆることの意味決定を尊重すること、観察と判断力など、看護師のより高い資質が求められる。人間理解の学修は基より、あらゆる看護領域の既修の知識・技術が基本となるため、関連領域の振り返りを行った上で臨んでほしい。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	【講義】在宅における援助技術 ①生活・医療ケアの原則				2章-1～3、4章-1について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				高橋 由美	
2	【講義】在宅における援助技術 ②食の援助・在宅経管栄養法 在宅中心静脈栄養法				3章-1、4章-11～12について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				高橋 由美	
3	【講義】在宅における援助技術 ③清潔の援助・移動の援助				3章-3～4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				高橋 由美	
4	【講義】在宅における援助技術 ④排泄の援助				3章-2、4章-9～10について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				高橋 由美	
5	【講義】在宅における援助技術 ⑤感染予防 褥瘡予防				2章-5、4章-13について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				高橋 由美	
6	【講義】事例にみる在宅看護 ①脳血管疾患患者とその家族				6章-4について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）				東海林 美幸	
7	事例にみる在宅看護 ②在宅での生活を希望する脳梗塞後遺症のある高齢者								東海林 美幸	
8	【講義】事例にみる在宅看護 ③在宅の認知症高齢者とその家族				6章-3について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業後感想）				東海林 美幸	
9	事例にみる在宅看護 ④被虐待が疑われる認知症高齢者								東海林 美幸	
10	【講義】事例にみる在宅看護 ⑤在宅で療養する障害者（成人）				6章-7について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業後感想）				真溪 淳子	
11	【講義】事例にみる在宅看護 ⑥在宅で療養する障害者（小児）				6章-9について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業後感想）				真溪 淳子	
12	【講義】事例にみる在宅看護 ⑦在宅で療養する障害者（精神）				6章-8について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業後感想）				真溪 淳子	
13	【講義】事例にみる在宅看護 ⑧ターミナル期の療養者とその家族				2章-6、4章-3、4章-17、6章-5について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業後感想）				真溪 淳子	
14	事例にみる在宅看護 ⑨最期まで自宅で過ごしたいターミナル期がん療養者								真溪 淳子	
15	【講義】在宅における援助技術 ⑥呼吸の援助と医療ケア				3章-5、4章-4～7について予習復習する（1時間）				東海林 美幸	

回	授業計画	準備学修	担当
16	在宅における援助技術 ⑦在宅酸素療法と援助の実際	授業内課題 レポート提出（詳細は授業内で説明する）	高橋 由美 真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子 庄司 玲美 江口 美知子
17	在宅における援助技術 ⑧在宅人工呼吸療法と援助の実際		
18	【講義】事例にみる在宅看護 ⑩在宅難病療養者とその家族	6章-6について予習し、授業を復習して理解を深める（1時間）学修カード（授業后感想）	東海林 美幸
19	事例にみる在宅看護 ⑪在宅での生活に不安を抱きつつ退院するALS患者		東海林 美幸
20	在宅看護過程 ①事例検討（初回訪問・ロールプレイ）	【事前】地域・在宅看護概論Ⅱの訪問看護過程とケアマネジメントについて復習して臨むこと。（概ね1時間） 【事後】配布資料および授業を復習し、課題に取り組む。 授業内課題 レポート提出（概ね3時間）	高橋 由美 真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子 江口 美知子
21	在宅看護過程 ②事例検討（情報収集・アセスメント）		
22	在宅看護過程 ③事例検討（看護計画・グループワーク）		
23	在宅看護過程 ④事例検討（ケアマネジメント・グループワーク）		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』臺有桂他編、MCメディアカ出版		
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディアカ出版 『写真でわかる訪問看護』押川真喜子監修、インターメディアカ 『場面で学ぶ在宅看護論』臺有桂他編、MCメディアカ出版		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題はレポート課題（30%）授業后感想（10%）で評価する。 ・授業内課題は講義時にフィードバックする。 		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師（病院等に5年以上勤務）として、地域・在宅看護の実務経験を活かし、具体的事例や看護実践方法を紹介しながら授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-01				
	●									
科目名	看護展開論 I				単位認定者	桑田 恵美子		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
				授業回数		8 回				
授業の概要	看護の対象としての家族を発達する家族・システムとしての家族と捉え、家族を取り巻く社会的文化的背景など家族理解のための基礎的知識と多様な家族への支援方法を学び、家族看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の特徴と発達する家族、システムとしての家族、家族を取り巻く社会的文化的背景、家族を理解するポイントについて説明できる。 2. 家族看護における看護の役割が説明できる。 3. 健康な家族のあり方、家族生活に健康的な変化をもたらす実践例（老年・母性・小児・精神）をもとに、多様な家族への支援方法について説明できる。 									
学修者への期待等	人の生活にとって「家族」とは、最も身近な存在である。日本の家族の歴史的背景や、家族看護の変遷から家族看護の役割を理解してほしい。家族は、家庭という環境の中で長年生活し家族成員同士がお互い大きな影響を及ぼしている。また現代では家族が多様化し、晩婚化・未婚・少子化等、社会の状況からも影響を受ける。家族成員に健康問題が生じると、家族はいろいろな影響を受ける。家族全体を視野に入れ家族の力を引き出し、家族全体の健康を目指す支援方法について考えを深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	家族看護の特徴、変遷、看護者の役割と基本姿勢				【事後】 授業後学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
2	家族看護の対象の理解				【事後】 授業後学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
3	家族看護を支える理論と支援方法				【事後】 授業後学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
4	家族看護展開の方法（家族支援のために）				【事後】 授業後学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
5	各発達段階の子どもを持つ家族への支援				【事後】 授業後学び（概ね30分）			武田 美奈子		
6	女性のライフサイクルと家族				【事後】 授業後学び（概ね30分）			佐藤 理恵		
7	精神疾患と家族・その支援				【事前】 精神教科書7章「家族とその支援」を読み臨むこと（概ね1時間） 【事後】 LMS小テスト（概ね30分）			阿部 幹佳		
8	【グループワーク】 高齢者介護に関する家族支援				【事後】 授業後学び（概ね30分）			桑田 恵美子		
教科書	『系統看護学講座 別巻 家族看護学』上別府圭子他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、MCメディア出版									
参考文献	『家族看護学 理論と実践』鈴木和子 渡辺裕子著 日本看護協会出版会 『家族看護学 理論・実践・研究』Shirly May Harmon, Sheryl Thalman Boyd, 村田恵子他監訳、医学書院									
備考	授業内課題はLMSでの「授業後学び」で評価し、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師(病院等に5年以上勤務)としての資格、経験より、家族看護の実際を具体的に説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-02				
	●	●								
科目名	看護展開論Ⅱ				単位認定者	遠藤 美穂子		試験(筆記)	50%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40%
					授業形態	演習	授業時間数		46 時間	受講態度
				授業回数			23 回			
授業の概要	ヘルスアセスメント(データベース聴取、面接・問診技術、観察・測定・記録技術)、フィジカルアセスメントの基本的技術(視診・触診・打診・聴診)、各系統別の構造と機能(外皮系・感覚器・筋骨格系・神経系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・生殖器系・乳房)にもとづくアセスメントの視点や方法、成長発達(母性・小児・老年)に伴う特有なアセスメントの視点と方法を学び、看護実践に必要な臨床判断能力と人の全体(身体・精神・社会的)の査定に必要な基礎的知識とを身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの定義・目的について説明できる 系統的アセスメント(身体的・心理社会的)の視点・方法が説明できる ヘルスアセスメントに必要な基本的技術の方法が説明できる 各系統別でのフィジカルアセスメントの視点と方法が説明でき、必要な基本的技術をモデル人形へ実施できる 成長発達に伴う特有なアセスメントの視点や方法が説明できる 									
学修者への期待等	1年次に履修している「人体構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」は、ヘルスアセスメントの基礎となります。復習して、知識を積み重ねていきましょう。また、指示された準備学修を行い、講義・演習に主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】ヘルスアセスメントとは 定義・目的と意義 身体部位、方向と位置				【事後】提示された課題に回答して臨む(30分)			二口 尚美		
2	フィジカルイグザミネーションにおける手の使い方 胸部の場所の探し方、腹部と臓器の位置				【事後】授業内で記載した課題を整理する(30分) AB2クラスに分けて実施			二口 尚美 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子		
3	ヘルスアセスメントに必要な基本的技術 視診、触診、打診、聴診、意識、身体計測 反転授業				【事前】予習動画視聴(30分程度) 【事後】第3回講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
4	系統別フィジカルアセスメント① 外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
5	系統別フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
6	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
7	系統別フィジカルアセスメントの実技① 視診、触診、打診、聴診、意識、外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系				ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートを学修して臨む(1時間程度) 【事後】ワークシートの記入			遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美		
8	系統別フィジカルアセスメントの実技② 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房							遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美		
9	事例を用いたフィジカルアセスメント グループワーク				【事後】ワークシートの記入			遠藤 美穂子		
10	【講義】高齢者のヘルスアセスメント 高齢者のフィジカルアセスメントの特徴、バイタルサインの特性、アセスメントの視点とアセスメントツール				【事前】教科書〈老年看護学①〉p.221~241を予習して臨む(1時間程度) 【事後】授業後：学びの提出(約10分)			菅原 尚美		
11	高齢者のフィジカルアセスメントの実際① (実技・グループワーク)				ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートで予習する(1時間程度)			菅原 尚美 齋藤 美華 桑田 恵美子		
12	高齢者のフィジカルアセスメントの実際② (討議)				【事後】ワークシートを整理し提出する(30分程度)			菅原 尚美 齋藤 美華 桑田 恵美子		
13	【講義】子どものアセスメント① 子どもに特徴的なアセスメントの視点				【事前】教科書〈小児看護学[1]〉p.284~302を予習して臨む(1時間程度)			岡崎 草代夏		

回	授業計画	準備学修	担当名
14	【講義】子どものアセスメント② アセスメントに必要な技術	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉 p 303～343を予習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏
15	子どものアセスメントの実際① 子どものバイタルサイン測定	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートに取り組み事前 学習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
16	子どものアセスメントの実際② 子どもの身体計測	【事後】15回、16回の演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
17	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法① 妊娠・分娩期	【事前】正常な妊娠・分娩経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
18	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法② 産褥・新生児期	【事前】正常な産褥経過・早期新生児期経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
19	母性看護におけるアセスメントの実際① 妊娠・分娩期	ABクラスに分けて実施 【事後】演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
20	母性看護におけるアセスメントの実際② 産褥期・新生児期		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
21	事例を用いたヘルスアセスメント① フィジカルアセスメントの実技	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートを学修して臨む 【事後】ワークシートの記入	遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美
22	事例を用いたヘルスアセスメント② ヘルスアセスメントの実技・グループワーク		遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美
23	事例を用いたヘルスアセスメント③ 学びの統合 グループワーク	【事後】演習の学びを整理し、レポートを作成する（1時間程度）	遠藤 美穂子
教科書	『看護学テキストNice 基礎看護技術』香春知永他著、南江堂 『ナーシンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他著、メディカ出版 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/小児看護学総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院		
参考文献	『ナーシング・スキル』エルゼビア・ジャパン株式会社 『ナーシングチャンネル』株式会社京都科学 『高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美他著、MCメディカ出版 『日常生活における高齢者のヘルスアセスメント』educational-video-online 丸善出版株式会社 *その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する。		
備考	*準備学習の予習動画視聴は、ナーシング・スキル、ナーシングチャンネル等の動画コンテンツを含みます。 *準備学習のワークシートは使用時に配布し、事前・事後課題への取組みと提出はその都度、指示をします。 *授業内課題は、提出物（レポート、ワークシート、学び、振り返り等）で評価し、適宜フィードバックします。		

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を活かし、看護展開の基礎となるヘルスアセスメントについて、身体的側面、心理的側面、社会的側面など多角的・専門的な視点から学生に伝える。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-03			
	●	●		●					
科目名	看護展開論Ⅲ				単位認定者	阿部春美 桑田恵美子 武田美奈子 佐藤理恵 阿部幹佳		試験（レポート）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	演習	授業時間数		46 時間
				授業回数		23 回			
授業の概要	対象の特性や状態を理解した上で、必要とされる看護を判断し、看護を計画的実践に必要な看護過程を学び、健康レベルを成長段階（小児期＜急性期＞・成人期＜慢性期＞・老年期＜慢性期＞、産褥期にある母・子＜ウェルネス＞）、および精神障がいのある対象の健康課題を査定し看護計画立案に必要な基礎的知識を身につける。								
到達目標	<p>1. 根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的知識（アセスメント・計画、実施、評価）が説明できる。</p> <p>2. 対象の健康レベルを発達段階（小児期＜急性期＞・成人期＜慢性期＞・老年期＜慢性期＞、産褥期にある母、子＜ウェルネス＞）、精神障がい、個人や家族の生活、地域の特性と健康課題をアセスメントし、看護計画の立案ができる。</p> <p>1) 理論的枠組みに沿って対象の情報を分類でき、看護の対象に関する現象と修得した知識と関連づけて説明できる。</p> <p>2) 現在の健康状態とその原因について分析（根拠となる情報から論理的な記述）でき、問題に対して、なぜその看護が必要なのか記述できる。</p> <p>3) 模擬事例を通して対象の状態に合わせた看護計画を立案できる。</p>								
学修者への期待等	看護過程は看護を科学的に実践するためのツールです。看護過程の展開を通しての学修は、「論理的思考」「問題解決思考」「臨床判断能力」を磨くことにつながります。積極的に授業に参加し、対象の健康課題を査定し看護計画立案に必要な基礎的知識を身につけることを期待します。特に対象の状態を理解するためのアセスメント能力はしっかりと身につけることを期待します。								
回	授業計画				準備学修		担当名		
1	【講義】 看護過程6つのステップとアセスメント				テキストP2～P35看護過程の基盤となる考え方を読む（概ね1時間）		木下 美佐子		
2	【講義】 アセスメントから看護診断、目標・成果の設定				課題：アセスメントの課題作成（概ね1時間）		木下 美佐子		
3	【講義】 看護計画立案から看護実施、評価				課題：看護診断、目標・成果指標の設定（概ね1時間）		木下 美佐子		
4	【講義】成人慢性期患者の特徴とアセスメントの視点（ゴードンの機能的健康パターンの枠組みに沿って）				【事前】事前課題（事例の病態・治療）を学修（概ね1時間） 【事後】データベース・看護歴を記入（概ね2時間）		阿部 春美		
5	【グループワーク】 慢性期の看護過程①（事例：成人期糖尿病性腎症）（アセスメント、関連図）				【事後】関連図を完成（概ね2時間）		阿部 春美		
6	【グループワーク】 慢性期の看護過程②（看護診断）				【事後】看護問題、優先度の設定（概ね1時間）		阿部 春美		
7	【グループワーク】 慢性期の看護過程③（目標・看護計画・評価）				【事後】看護計画まで完成、提出（概ね2時間）		阿部 春美		
8	【講義】 小児の看護過程（小児の特徴を活かす）				【事前】セルフケアケア理論等についての復習（1時間）		武田 美奈子		
9	【講義】 小児の看護過程（小児の特徴に沿ったアセスメント）				【事後】紙上事例を読み、発達段階・関連図・アセスメントを記載する（3時間）		岡崎 草代夏		
10	【グループワーク】小児の看護過程の展開 紙上事例の展開（アセスメントを中心に）				【事前】上記を確実に記載してくる		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
11	【発表】小児の看護過程の展開 紙上事例の展開				【事後】グループワークで得た学びも加筆して課題を提出する（1時間）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
12	【講義】 老年期の看護過程—分析（問題の原因・援助の必要性・解決の方向性）				【事後】：①課題事例を読み・自己学習（3時間）②授業の学びのまとめ		桑田 恵美子 菅原 尚美		
13	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】アセスメント				【事前】：課題事例を読み、アセスメント（2時間） 【事後】：授業の学びのまとめ		桑田 恵美子 菅原 尚美		
14	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】看護問題の抽出				【事前】：看護問題の抽出終了。演習内容の検討（1時間） 【事後】：授業の学びのまとめ		桑田 恵美子 菅原 尚美		
15	生活機能障害のある高齢者の看護過程（回復期・リハビリ期） 【グループワーク】看護計画の立案				【事前】：看護計画の立案（3時間） 【事後】：①授業の学びのまとめ ②看護計画の立案を完成・提出		桑田 恵美子 菅原 尚美		

回	授業計画	準備学修	担当名
16	【講義】 母性看護学におけるウェルネス診断	【事後】紙上事例を読みアセスメント用紙を完成（概ね2時間）	田辺 圭子
17	母性看護の展開① 【グループワーク】：産褥期の母子事例の情報収集（ゴードンの11の機能的健康パターン）・アセスメント		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
18	母性看護の展開② 【グループワーク】：アセスメントの総括・看護診断	【事後】看護計画立案用紙を完成・提出（概ね2時間）	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
19	母性看護の展開③ 到達目標・看護計画・看護の実践・評価		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
20	【講義】 精神科看護の実践の特徴 ・患者理解のための情報整理 ・セルフケアの6つの領域（オム・アンダー・アウトモデル） ・セルフケアレベルの把握	【事前】精神教科書20-23. 4章精神科看護における対象の理解を読む 統合失調症をもつ人の治療と看護について復習（概ね1.5時間）	加藤 真理子
21	【実技】 精神看護の展開1：統合失調症（慢性期） ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例の情報整理とアセスメント ・患者理解と看護援助	【事後】 統合失調症（慢性期）の事例展開（概ね1.5時間）について復習	阿部 幹佳 加藤 真理子
22	【実技・グループワーク】 統合失調症（慢性期）の看護援助解説 精神看護の展開2：気分障害（抑うつ状態） ・事例紹介と具体的な展開方法 ・事例の情報整理とアセスメント ・患者理解と看護援助	【事前】 気分障害（抑うつ状態）を持つ人の治療と看護について復習（概ね1時間）	阿部 幹佳 加藤 真理子 大曾根 孝子 高橋 あつ子
23	【プレゼンテーション・グループワーク】 精神看護の展開2：気分障害（抑うつ状態） ・まとめ	【事後】気分障害（抑うつ状態）事例展開完成・提出（概ね1.5時間）	阿部 幹佳 加藤 真理子 大曾根 孝子 高橋 あつ子
教科書	『看護がみえる4, 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護』鈴木久美編、南江堂 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害』堀井ふき他編集、MCメディア出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践』堀井ふき他編集、MCメディア出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子編、MCメディア出版 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/小児看護学総論』奈良間美保他著、医学書院		
参考文献	『看護学テキストNiCE 老年看護学概論』正木治恵他編、南江堂 『看護学テキストNiCE 老年看護学技術』正木治恵他編、南江堂 『生活機能からみた 老年看護過程：+病態・生活機能関連』山田律子編著 医学書院 『精神看護学 第2版』田中美恵子編著、医歯薬出版		
備考	*試験（レポート）は、各領域の看護過程の完成度で評価します。 成人（20%）・老年（20%）・小児（20%）・母性（20%）・精神（20%） *授業内課題は、次回授業時フィードバックします。		

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を生かし、看護過程について理解が深められるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-04				
	●									
科目名	健康状態別看護 I				単位認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
							授業時間数		16 時間	
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	保健行動学で学んだ知識をもとに保健指導の方法や、乳幼児期・学童期・成人期・高齢期および女性のライフステージにおける発達・健康課題、労働者の健康課題と産業保健、母子保健・障害者・高齢者施策などについて学び、看護実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健指導の理論と基本的な展開方法を説明できる。 2. 女性のライフステージ各期の健康課題と母子保健施策及び保健指導による支援について説明できる。 3. 乳幼児期・学童期の発達・健康課題と保健指導による支援について説明できる。 4. 成人期の発達・健康課題と保健指導による支援について説明できる。 5. 労働者の健康課題と産業保健施策及び保健指導による支援について説明できる。 6. 高齢期の発達・健康課題と高齢者施策及び保健指導による支援について説明できる。 									
学修者への期待等	この科目の学修には1年次に履修した「保健行動学」を復習して臨んで下さい。各領域毎のオムニバスとなるため、毎回授業を復習して学修内容を整理すると効果的です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	健康状態別看護 I ガイダンス、保健指導の主要な理論と展開方法				テキスト「行動変容のモデル」を予習して臨み、授業内容を復習し理解を深める（各30分間程度）			小林 淳子		
2	女性のライフステージ各期における健康課題への保健指導 I（思春期）				母性看護学概論で学修したライフステージ各期の健康課題を復習して臨み、授業内容を復習して理解を深める（1時間程度）			佐藤 理恵		
3	女性のライフステージ各期における健康課題への保健指導 II（成熟期・更年期・老年期）							佐藤 理恵		
4	乳幼児・学童期にある子どもとその家族への保健指導発達段階に合わせた支援方法				小児看護学概論で学修した健康な子どもの発達段階・発達課題を復習して臨み、授業内容を復習して理解を深める（各30分間程度）			佐藤 幸子		
5	成人期の発達・健康課題の特徴、おとなの学びの特徴（アンドラゴジーモデル）				成人看護概論で学修した成人期の発達について復習して臨み、授業内容を復習して理解を深める（各30分程度）			岡崎 優子		
6	生活習慣に関連した健康課題と生活習慣の是正（健康増進法と特定健診・特定保健指導）、職業に関連した健康障害と施策				生活習慣病について事前学習して臨み、授業内容を復習して理解を深める（各30分間程度）			岡崎 優子		
7	高齢者の発達・健康課題への保健指導（健康維持・増進と介護予防）				老年看護学概論を復習し「高齢者をとりまく社会制度」について理解して臨み、授業内容を復習して理解を深める（各30分程度）			齋藤 美華		
8	健康状態別看護 I まとめ				各領域の授業内容を復習して臨み、保健指導を考察してレポートを作成する（各1時間程度）			小林 淳子		
教科書	『行動科学 健康づくりのための理論と応用』畑栄一他著、南江堂									
参考文献	各領域で使用する教科書									
備考	各領域の授業内課題は、課題の取り組み内容で評価し、適宜フィードバックします。母性：20%、小児：10%、成人：20%、老年：10%									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師（自治体等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、ライフステージ毎の健康課題と保健指導について理解が深められるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-05				
	●	●								
科目名	健康状態別看護Ⅱ				単位認定者	伊藤 茉莉子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	周手術期過程における看護、術後合併症と予防、術後の機能障害や生活制限への看護、手術療法を受ける対象の身体的・心理的・社会的特徴を査定し回復過程および社会復帰を支援するための看護技術(循環管理、呼吸管理、創傷処置、ドレーン管理、ストーマ管理、離床支援、清潔ケア)を学び、周手術期にある対象への看護の基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期過程の看護、術後合併症と予防、術後の機能障害や生活制限への看護が説明できる。 2. 手術療法を受ける成人の身体的・心理的・社会的特徴を査定し、回復過程および社会復帰を支援するための看護技術について、模擬患者で実施できる。 3. 手術療法を受ける高齢者の看護援助について説明できる。 4. 手術療法を受ける子どもと家族の看護援助について説明できる。 5. 手術療法を受ける妊産婦の看護援助について説明できる。 6. 手術療法を受ける精神疾患・障がい者の看護援助について説明できる。 									
学修者への期待等	これまで学修した知識や技術を活用できるよう復習して授業に臨んで下さい。周手術期の看護技術では、実際の臨床場面を想定したシミュレーション学習の実践を通して学修します。学生が相互に学びを深められるよう、主体的に授業に臨み、自身の考えを相手に伝えるように表現することを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 周手術期看護の概要と看護師の役割 周手術期にある患者・家族の特徴				【事前】教科書①第2部第Ⅰ章を予習して臨むこと(概ね30分)			伊藤 茉莉子		
2	【講義】反転授業 手術侵襲と生体反応				【事前】教科書①第1部を予習、確認テストを受験して臨むこと(概ね1時間)			伊藤 茉莉子		
3	【講義】反転授業 手術前期における患者・家族の看護				【事前】教科書①第2部第Ⅱ章を予習、確認テストを受験して臨むこと(概ね30分)			伊藤 茉莉子		
4	【講義】反転授業 手術期における患者・家族の看護				【事前】教科書①第2部Ⅲ章を予習、確認テストを受験して臨むこと(概ね30分)			伊藤 茉莉子		
5	【講義】反転授業 手術後期における患者の看護 (主な術後合併症、術後観察・アセスメント)				【事前】教科書①第2部Ⅳ章1.～7.を予習、確認テストを受験して臨むこと(概ね30分)			伊藤 茉莉子		
6	【講義】反転授業 手術後期における患者の看護 (術後合併症を予防する看護)				【事前】教科書①第2部Ⅳ章8.～9.を予習、確認テストを受験して臨むこと(概ね30分)			伊藤 茉莉子		
7	周手術期の看護技術① 創部・ドレーン・ストーマの管理、患者模擬体験				A・Bの2グループに分け実技演習を行う 【事前】教科書②第Ⅱ章3.術後の看護技術D～Fを予習して臨むこと(概ね30分) 【事後】確認テスト			伊藤 茉莉子 阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子		

回	授業計画	準備学修	担当
8	周手術期の看護技術②：実技（シミュレーション） 手術後患者の観察・アセスメント	A・B・Cの3グループに分け実技演習を行う 【事前】課題レポート（概ね1時間） 【事後】課題レポート（概ね1時間）	伊藤 茉莉子 阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
9	周手術期の看護技術③：実技（シミュレーション） 離床の援助	A・Bの2グループに分け実技演習を行う 【事前】課題レポート 教科書②第Ⅱ章3.術後の看護技術Gを予習して臨むこと（概ね1時間） 【事後】課題レポート（概ね1時間）	阿部 春美 岡崎 優子 泉田 さとみ 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
10	周手術期の看護技術④：実技 医療機器を装着している人の看護 （輸液ポンプ・シリンジポンプ管理、気管吸引）	A・Bの2グループに分け実技演習を行う 【事前】課題レポート 教科書②第Ⅲ章P289～295を予習して臨むこと（概ね30分） 【事後】確認テスト	泉田 さとみ 阿部 春美 岡崎 優子 伊藤 茉莉子 遠藤 美穂子 小倉 真紀 大石 慶子 松田 郷子
11	【講義】 周手術期にある高齢者の看護 手術を受ける高齢者への看護の特徴と合併症の予防	【事前】教科書④の「3治療を受ける高齢者の看護」の「2手術療法」p310～322を読む（概ね30分）	齋藤 美華
12	【講義】 周手術期にある子どもとその家族への看護	【事前】教科書⑤p. 256-268を読み、手術を受ける子どもや家族の気持ちを考えて臨むこと（概ね30時間）	佐藤 幸子
13	【講義】 周手術期にある妊産婦の看護（帝王切開術） 女性生殖器の手術を受ける患者の看護	【事前】分娩の異常と看護、子宮全摘の術式や看護について予習して授業に臨む（概ね1時間）	坂村 佐知
14	【講義】 周手術期にある精神疾患をもつ人への看護	【事前】精神看護学援助論Ⅱ 教科書 第1章「身体疾患と精神症状」p. 108-115を読む（概ね1時間）	加藤 真理子
15	【講義】反転授業 術後の継続看護、周術期看護のまとめ	【事前】教科書①第2部Ⅴ～Ⅵ章を予習、確認テストを受験して臨むこと（概ね30分）	伊藤 茉莉子
教科書	①『看護学テキストNiCE成人看護学 急性期看護学Ⅰ 概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ②『看護学テキストNiCE成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ③『看護データブック』新井治子編、医学書院 ④『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版 ⑤『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 ⑥『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 ⑦『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子編、メディカ出版		
参考文献	『病気がみえる vol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	授業内課題は適宜フィードバックを行います。 授業内課題は授業前後の確認テスト（8%）、第7～8回課題レポート（12%）で評価します。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての臨床経験を生かし、周術期における患者・家族の看護について学び、実技演習を通して実践力を身につけられるよう展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-06				
	●	●								
科目名	健康状態別看護Ⅲ				単位認定者	阿部 春美 遠藤 美穂子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	終末期における患者と家族のQOL維持・向上のために、身体・精神症状、社会的苦痛に対する緩和ケア、死の受容プロセス、臨死期における身体徴候と看護援助、悲嘆と悲嘆のプロセス・グリーフケアなどの援助技術などを学び、終末期にある患者と家族への看護実践の基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者・家族の特徴を説明できる。 2. 死の受容プロセスを発達段階の特徴を含めて説明できる。 3. 緩和ケアの定義、身体・精神症状、社会的苦痛に対する看護援助について説明できる。 4. 臨死期における身体徴候と看護援助について説明できる。 5. 悲嘆と悲嘆のプロセス、グリーフケアについて説明できる。 6. 死亡時のケアの目的、故人や家族の希望に配慮した方法について説明できる。 7. 様々な終末期事例（高齢者、小児、母性、精神）を通して、終末期にある患者・家族への援助について具体的に述べるができる。 									
学修者への期待等	超高齢化社会において、終末期医療はさらに重要性を増してきます。終末期医療における看護の役割を理解し、対象者が安心してその人らしく人生の終焉を迎えるための看護について学んでいきましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	授業ガイダンス 終末期看護の概念と特徴				【事後】 授業内後学び（概ね30分）			阿部 春美		
2	終末期にある患者・家族の理解 アドバンス・ケア・プランニング				【事後】 授業内後学び（概ね30分）			阿部 春美		
3	終末期における退院支援・地域連携 療養の場所別にみる終末期看護				【事前】 教科書〈終末期看護〉第1編一第3章Ⅲ、第2編一第4章、第5章、を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
4	緩和ケアにおける看護の役割①身体的ケア				【事前】 教科書〈終末期看護〉第2編一第3章 I～Ⅲを予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
5	緩和ケアにおける看護の役割② 精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア				【事前】 教科書〈終末期看護〉第2編一第3章 IV～Ⅵを予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
6	臨死期における症状マネジメントとケア 臨死期前後の看護				【事前】 教科書〈終末期看護〉第2編一第5章を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
7	グリーフケア、ビリーブメントケア グループワーク				【事前】 第2回授業の振り返り及び教科書〈終末期看護〉第2編一第5章を予習して臨むこと（概ね1時間）			遠藤 美穂子		
8	がん患者の終末期看護 非がん疾患患者への終末期看護 グループワーク				【事前】 教科書〈終末期看護〉第2編一第7章 I～Ⅲを予習して臨むこと（概ね30分）			遠藤 美穂子		
9	高齢者の終末期ケア① 高齢者の終末期ケアの特徴とケアの実際				【事前】 教科書〈老年看護学② 高齢者看護の実践〉の p 350～363を予習して臨むこと（概ね30分）			齋藤 美華		
10	高齢者の終末期ケア② 高齢者の終末期を支える家族へのケア				【事前】 第9回授業の振り返り及び教科書〈老年看護学② 高齢者看護の実践〉の p 364～367を予習して臨むこと（概ね30分）			齋藤 美華		

回	授業計画	準備学修	担当
11	子どもとその家族への終末期看護 子どもの死への理解/終末期にある子どもとその家族の理解/子どもとその家族への看護	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉第3章Dを予習し臨むこと（概ね30分）	武田 美奈子
12	母性 マタニティサイクルにおける終末期看護 (児を亡くした褥婦・家族の看護) 流産、死産、新生児死などによって児を亡くした褥婦への身体的ケアと別れの支援、家族へのケア	【事前】流産、死産の定義と病態、看護について予習しておくこと（概ね1時間）	坂村 佐知
13	【グループワーク】 精神疾患患者の終末期看護 長期入院患者の事例から	【事前】精神看護学援助論Ⅱ・統合失調症（慢性期）の症状、治療と看護の学習内容の復習をすること（概ね1時間） 【事後】授業後の学び（概ね30分）	足立 健一 阿部 幹佳 遠藤 美穂子
14	事例検討：終末期医療における倫理的課題① グループワーク	【事前】教科書〈終末期看護〉第1編一第4章を予習して臨むこと（概ね30分）	遠藤 美穂子
15	【発表】 事例検討：終末期医療における倫理的課題② プレゼンテーション まとめ	【事後】授業後の学び（概ね30分）	遠藤 美穂子
教科書	『新体系看護学全書 経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア』 田村恵子著、メヂカルフレンド社 『ナースィング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふさ他編集、MCメデイカ出版 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学[1]小児看護学概論/小児看護学総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学[2]母性看護学各論』森恵美他著、医学書院		
参考文献	『精神に病を持つ人の看取り その人らしさを支える手がかり』田代誠他編、精神看護出版 『ナースィング・スキル』エルゼビア・ジャパン株式会社		
備考	* 授業内課題は次回の授業時にフィードバックします。 * 授業内課題及び授業後課題は評価の対象となります。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を活かし、ライフステージや健康段階に応じた終末期にある患者・家族の援助を伝える。また、精神疾患患者の終末期看護は、臨床看護師を招聘し精神科病棟における看護の現状と必要な看護を学ぶ機会とする。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-ANS-02				
	●	●								
科目名	成人看護学援助論 I				単位認定者	岡崎 優子		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	60 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護、リハビリテーション看護、がん患者と家族の看護、慢性期の代表的な事例についての看護援助、患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射手技、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）、看護職に必要な放射線の基礎知識や看護の役割を学び、成人期の慢性疾患および慢性的な健康課題を有する人を援助するための基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期にある患者と家族の特徴、慢性疾患の治療と看護（セルフケア・自己管理への看護、社会的支援の獲得）について理解できる。 リハビリテーションの特徴、障害に対する受容と適応への看護について理解できる。 がん患者と家族の抱える苦痛・生活上の困難、がん治療（化学療法、放射線療法、集学的治療と看護、社会誠意参加への支援（環境と阻害要因））について理解できる。 看護職に必要な放射線の基礎、放射線を用いた検査・治療、人への放射線の健康影響・リスク、放射線利用時の被曝に対する防護策が理解できる。 慢性期の代表的な事例（呼吸、循環、脳・神経、栄養摂取・消化、代謝、内部環境調整、造血器、生体防御、運動、排泄、感覚機能障害）についての具体的な看護が理解できる。 患者のセルフケアを促進するための技術（インスリン自己注射技術、血糖自己測定、透析内シャント管理、心電図、自己検脈、ペースメーカーの管理、呼吸リハビリテーション）ができる。 									
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 常に“何故？”という問題意識をもって積極的に授業に臨むよう要望する。 成人看護学援助論は看護実践能力を養うことを目標にしており、基本から積み重ねた学修が必要となる。1年次の「病態治療学Ⅰ～Ⅳ」、「成人看護学概論」の復習をして、授業に望んでほしい。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】ガイダンス、慢性期看護とは				教科書①（慢性期看護、慢性疾患を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
2	【講義】慢性疾患を有する人と家族への援助							岡崎 優子		
3	【講義】慢性疾患を有する患者のセルフケア、自己管理の看護（セルフマネジメント、学習理論を活用した面接）				成人看護学概論、健康状態別看護Ⅰ（成人期）について復習すること（概ね1時間）			岡崎 優子		
4	【講義】リハビリテーション看護（リハビリテーションの特徴、障害受容と適応の心理過程と看護）				成人看護学概論、病態治療学Ⅰ（リハビリテーション療法）について復習すること（概ね1時間）			阿部 春美		
5	【講義】栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病				教科書①（消化器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
6	【講義】栄養摂取・消化に問題のある患者の看護 事例：慢性膵炎、肝炎、肝硬変							岡崎 優子		
7	【講義】循環器系に問題のある患者の看護 事例：虚血性心疾患、慢性心不全				教科書①（循環器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			阿部 春美		
8	【講義】循環器系に問題のある患者の看護 事例：不整脈、高血圧							阿部 春美		
9	【実技】慢性期患者への看護技術1 心電図				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子		
10	【講義】内部調節機能に問題のある患者の看護 事例：内分泌機能障害				教科書①（代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）			岡崎 優子		
11	【講義】代謝系に問題のある患者の看護 事例：糖尿病、脂質代謝異常症							岡崎 優子		
12	【実技】慢性期患者への看護技術2 インスリン療法				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子		
13	【実技】慢性期患者の看護技術3 自己血糖測定				演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）			岡崎 優子		

回	授業計画	準備学修	担当
14	【講義】排泄機能に問題のある患者の看護 事例：慢性腎臓病、腎不全、前立腺がん、膀胱がん	教科書①（腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
15	【実技】慢性期患者への看護技術4 透析内シャント管理	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	岡崎 優子
16	【講義】血液・造血器機能に問題がある患者の看護 事例：再生不良性貧血、白血病	病態治療学Ⅱ（血液免疫系）の復習をしていくこと	岡崎 優子
17	【講義】脳・神経系に問題のある患者の看護 事例：脳血管障害、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症	教科書①（脳・神経系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
18	【実技】慢性期患者への看護技術5 ペースメーカーの管理、自己検脈、自己血圧測定	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	岡崎 優子
19	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：気管支喘息、COPD	教科書①（呼吸器系の障害を有する人とその家族の援助）を予習して臨むこと（概ね1時間）	岡崎 優子
20	【講義】呼吸器系に問題のある患者の看護 事例：肺炎、間質性肺疾患		岡崎 優子
21	【実技】慢性期患者への看護技術6 呼吸リハビリテーション	演習資料を事前学修してくること（概ね1時間）	岡崎 優子
22	【講義】がんの動向と看護	事前課題の予習を行い、疑問点を明らかにしておく（概ね1時間）	小倉 真紀
23	【講義】がん治療と看護 がん患者の身体的苦痛、浸襲的治療と看護	教科書②（がん患者の看護、治療）を予習して臨むこと（概ね1時間）	小倉 真紀
24	【講義】がん患者の体験を聞く がん患者・家族の心理・社会的苦痛と援助	講義後課題：「がん患者・家族の心理」について、考察をまとめて提出（概ね3時間）	岡崎 優子 鈴木 辰也
25	【実技】慢性期患者の看護技術7 セルフマネジメント支援・相談技術とは	事前課題を学修してくること（概ね1時間）	岡崎 優子
26	【実技】慢性期患者の看護技術8 セルフマネジメント支援・相談技術の実際		岡崎 優子
27	【講義】放射線看護 放射線診療の概要と看護職の役割	教科書④（放射線利用と看護職の役割）について予習してくる（概ね1時間）	阿部 春美
28	【講義】放射線診療の安全管理と看護職の関わり	教科書④放射線被ばくに伴う健康影響を理解する）について予習してくる（概ね1時間）	阿部 春美
29	【講義】感覚機能障害のある患者の看護 事例：中途失明、聴覚障害	病態治療学Ⅱ（感覚機能障害）の復習をしていくこと（概ね1時間）	岡崎 優子
30	【講義】アレルギー・膠原病・感染症患者の看護 事例：アナフィラキシー、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、HIV	病態治療学Ⅱ（免疫系）の復習をしていくこと（概ね1時間）	阿部 春美
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期看護』鈴木久美編、南江堂 ②『系統看護講座 別巻 がん看護学』小松浩子他著、医学書院 ③『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ④『看護と放射線 放射線を正しく理解した看護職であるために』日本アイソトープ協会編、日本アイソトープ協会		
参考文献	病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書：系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～Ⅳ 「経過別看護過程の展開」関口恵子監修、学習研究社		
備考	・授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 ・第9回、12回、13回はA・Bの2クラスに分けて実施する。 ・第9回、12回、13回、15回、18回、21回、25回、26回は上記の担当教員に加え、以下の専任教員、非常勤講師が担当する。 専任教員：阿部春美、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀 非常勤講師：大石慶子（第9回のみ）、松田郷子（第12回、13回のみ）		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として成人期の臨床経験を持つ教員、糖尿病看護認定看護師による授業を実施する。また、がん患者を招聘して、がん患者・家族に必要な看護を理解できるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-ANS-03				
	●	●								
科目名	成人看護学援助論Ⅱ				単位認定者	阿部 春美		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
				授業回数		15 回				
授業の概要	急性期にある患者と家族の特徴、危機的状態への精神的支援・意思決定支援、救急患者の特徴、主要病態に対する応急処置と看護、急性期に必要な医療機器を装着している人のケアを学び、成人期の急激な健康破綻と回復過程にある人を援助するための成人看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 急性期にある患者と家族の特徴(身体的・心理的・社会的)が説明できる 危機的状態への精神的支援・意思決定支援の方法について説明できる 救急患者の特徴、救急看護体制について説明できる 救急患者の観察と主要病態に対する応急処置と看護について説明できる 救急時の看護に必要な技術を理解し、模擬患者もしくはモデル人形に対し実施できる 急性期に必要な医療機器を装着している人のケアについて、模擬患者もしくはモデル人形で指導の下に実施できる 									
学修者への期待等	成人看護学援助論は実践能力を養うことを目標としており、関連科目の学びを積み重ねた学修が必要となります。シミュレーターや看護モデルを有効に活用し、主体的に学修しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 ガイダンス 急性期看護概論 救急医療・集中治療の現状と看護				【事前】 教科書①第1部(急性期看護概論)を予習して臨むこと 教科書②第Ⅰ～Ⅲ章を予習(概ね30分)			阿部 春美		
2	【講義】 事例で考える急性期看護① 救急患者の主要病態(ショック、体温異常、外傷、熱傷、中毒)				【事前】 教科書②第Ⅷ章を予習(概ね1時間) 【事後】 小テスト(概ね30分)			阿部 春美		
3	事例で考える急性期看護②-1 消化器(グループワーク)				【事前】 病態治療学Ⅲ「消化器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】 小テスト(概ね30分)			泉田 さとみ		
4	【講義】 救命救急処置：心肺蘇生と救命処置 救急患者に対するアセスメント・援助、家族に対する援助(グループワーク)				【事前】 教科書②第Ⅳ章を予習(概ね30分) 【事後】 課題事例のレポート作成(概ね40分)			泉田 さとみ		
5	【実技】 救急・集中治療下の看護技術① (一次救命処置：BLS)				2グループに分けて実技演習を行う			泉田 さとみ		
6	【実技】 救急・集中治療下の看護技術② (止血法、異物除去法、外傷熱傷・熱中症の対応)				【事前】 第12回授業の復習。CPRトレーニングボトルを用いて、胸骨圧迫の練習をしていくこと。(概ね1時間) 【事後】 課題レポート作成(概ね40分)					
7	事例で考える急性期看護②-2 消化器：摂取機能の再確立(胃切除術)：アセスメント(反転授業、ディスカッション)				【事前】 看護展開論Ⅲ、健康状態別看護Ⅱ(手術侵襲)について復習して臨むこと 【事後】 関連図まで完成(概ね2時間)			阿部 春美		
8	事例で考える急性期看護②-3 消化器：摂取機能の再確立(胃切除術)：看護診断(反転授業、ディスカッション)				【事後】 看護問題、優先度の設定(概ね1時間)			阿部 春美		
9	事例で考える急性期看護②-4 消化器：摂取機能の再確立(胃切除術)：看護計画(反転授業、ディスカッション)				【事後】 看護計画まで完成(概ね2時間)			阿部 春美		
10	事例で考える急性期看護③ 呼吸器(グループワーク)				【事前】 病態治療学Ⅶ「呼吸器」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】 小テスト(概ね30分)			泉田 さとみ		
11	事例で考える急性期看護④ 頭部、運動器(グループワーク)				【事前】 病態治療学Ⅴ「運動器、中枢・末梢神経」、健康状態別看護Ⅱ(周手術期看護)を復習(概ね30分) 【事後】 小テスト(概ね30分)			泉田 さとみ		

回	授業計画	準備学修	担当
12	事例で考える急性期看護⑤ 生殖器、腎・泌尿器（グループワーク）	【事前】病態治療学Ⅳ「泌尿・生殖器」、健康状態別看護Ⅱ（周手術期看護）を復習（概ね30分） 【事後】小テスト（概ね30分）	小倉 真紀
13	【講義】医療機器の原理と取り扱い方法 輸液ポンプ、シリンジポンプ	【事前】教科書「成人看護技術」の該当する頁を学修すること	相澤 康弘 阿部 春美
14	【講義】医療機器の原理と取り扱い方法 人工呼吸器		相澤 康弘 阿部 春美
15	事例で考える急性期看護⑥：循環器 （グループワーク） 急性期看護 まとめ	【事前】病態治療学Ⅱ「循環器」、健康状態別看護Ⅱ（周手術期看護）を復習（概ね30分） 【事後】小テスト（概ね30分）	阿部 春美
教科書	①『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅰー概論・周手術期看護』林直子他編、南江堂 ②『看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護Ⅱー救急看護・クリティカルケア』佐藤まゆみ他編、南江堂 ③『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂 ④『看護データブック』新井治子編、医学書院 病態治療学Ⅰ～Ⅶで使用了テキスト		
参考文献	『系統看護学講座 別巻 救急看護学』山勢博彰他著、医学書院		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題は次回の授業時またはLMS上でフィードバックします。 ・第5回、6回は上記の担当教員に加え、以下の教員が担当します。 専任教員：阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、小倉真紀 非常勤講師：大石慶子、松田郷子 		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

授業の担当は看護経験を持つ専任教員・非常勤講師があたる。急性期において患者が回復をたどるための援助を理論的に理解させ、実技演習を通して実践力を身につけさせる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-02				
	●									
科目名	老年看護学援助論 I				単位認定者	齋藤 美華		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと生活するための援助方法、高齢者の加齢に伴う変化と生活機能への影響、生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、受療状況に応じた看護、認知症の病態、認知機能検査、多様な生活の場、看護と介護の協働、多職種連携などについて学び、老年看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 多様な健康問題やニーズをもった高齢者へのケアの特徴を説明できる。 超高齢社会における現状と課題を説明できる。 高齢者の個々に応じたヘルスプロモーションについて説明できる。 高齢者の生活する場や生活形態・様式に沿った看護援助について説明できる。 地域包括ケアシステムの概念とその展開について説明できる。 老年看護の課題学習や演習に主体的に参加し、自分の考えを表現することができる。 高齢者および家族の状況に合わせて援助方法を考え、その根拠を説明できる。 									
学修者への期待等	高齢者看護の特性を捉え、そのケア技術の原理を理解した上で、あらゆる健康レベルに応じ、かつ、様々な生活の場における援助の知識・技術を学んでいきましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当者名		
1	高齢者の「豊かな生」への支援 高齢者看護の基本と特徴				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
2	超高齢社会における課題 老年保健とヘルスプロモーション				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
3	高齢者への医療的援助と入院時の援助 外来を受診する高齢者の援助、入院生活への援助 検査、薬物療法を受ける高齢者への援助				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
4	高齢者の退院支援 退院支援のプロセス、高齢者ケアに求められる継続性				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
5	高齢者の療養生活の支援 急性期・回復期・リハビリ期の高齢者の看護				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
6	高齢者の療養生活の支援 慢性期の高齢者への看護、認知障害への援助				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 在宅・介護保険施設等				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			齋藤 美華		
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割				【事後】 小テスト・授業後感想(学び) (概ね20分)			結城 修子 桑田 恵美子		
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶ				【事後】レポート課題 ①認知症当事者、家族の講話より学んだことをまとめる ②当事者、家族をサポートするための看護師の役割を8回目の授業と合わせまとめる (概ね3時間)			若生 栄子 当事者と家族 桑田 恵美子		
10	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 グループワーク				【事後】 小テスト(概ね30分)			齋藤 美華		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふき他編集、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践』堀井ふき他編集、MCメディカ出版									
参考文献	『看護学テキストNiCe 老年看護学概論』正木治恵・真田弘美編、南江堂 『看護学テキストNiCe 老年看護学技術』正木治恵・真田弘美編、南江堂 『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会 令和5年度高齢社会白書：(内閣府 https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html) 公益財団法人 長寿科学振興財団： https://www.tyojyu.or.jp/index.html									
備考	授業内課題は小テスト(10%)、授業後の学び(10%)、事後課題レポート(30%)で評価する。 LMSでの授業内課題については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として臨床経験を持つ専任教員が担当し、高齢者の特性を捉えた看護実践における知識・技術を習得できるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-GNS-03				
●	●									
科目名	老年看護学援助論Ⅱ				単位認定者	桑田 恵美子 菅原 尚美		試験（筆記）	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	高齢者に特有な症状・疾患・障害（廃用症候群・脱水症・摂食・嚥下障害、低栄養・フレイル、便秘・下痢、睡眠障害、歩行障害・転倒・転落、視覚・聴覚障害、皮膚障害、せん妄、感染症）と生活への影響、アセスメント、予防と援助方法について学び、老年看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に特有な症候・疾患・障害について、病態と要因、生活への影響、アセスメント、予防と援助について説明できる 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害（摂食・嚥下障害）についてアセスメント、予防と援助について実施できる 3. 高齢者に特有な症候・疾患・障害（歩行障害・転倒・転落）についてアセスメント、予防と援助について実施できる 4. 高齢者に特有な症候・疾患・障害（皮膚障害）についてアセスメント、予防と援助について実施できる 									
学修者への期待等	老年看護の役割は高齢者一人ひとりがその人らしく最後まで生を全うするのを支えることです。本科目で高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響を関連させて学修することが、老年看護の実践力を身につける基盤となります。すでに学修している高齢者の加齢変化（身体的・精神的・社会的）をふまえて、高齢者の症状・疾患・障害と生活への影響とを関連付けてアセスメントする力を修得して欲しいと期待しています。演習はグループで行います。主体的に取り組む態度や、意見交換を通して学び合おうとする姿勢も求めます。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 食生活を支える看護：脱水症、摂食・嚥下障害				【事後】 ・授業後学びの提出(30分) ・授業後小テスト (15分)			菅原 尚美		
2	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 食生活を支える看護：低栄養・フレイル							菅原 尚美		
3	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 排泄を支える看護：尿失禁、便秘・下痢							菅原 尚美		
4	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 清潔・衣生活を支える看護：掻痒、感染症							菅原 尚美		
5	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 清潔・衣生活を支える看護：褥瘡							菅原 尚美		
6	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 活動と休息を支える看護：視覚・聴覚障害							桑田 恵美子		
7	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 活動と休息を支える看護：睡眠障害、せん妄							桑田 恵美子		
8	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 歩行・移動を支える看護：歩行障害、転倒・転落							桑田 恵美子		
9	【講義】高齢者に特有な症状・疾患・障害と生活への影響 歩行・移動を支える看護：廃用症候群							桑田 恵美子		
10	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 摂食・嚥下障害のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修（1時間）			菅原 尚美 桑田 恵美子 齋藤 美華		
11	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 摂食・嚥下障害のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出（1時間）			菅原 尚美 桑田 恵美子 齋藤 美華		
12	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 歩行障害、転倒・転落のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修（1時間）			桑田 恵美子 菅原 尚美 齋藤 美華		
13	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 歩行障害、転倒・転落のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出（1時間）			桑田 恵美子 菅原 尚美 齋藤 美華		
14	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 皮膚障害のアセスメント・予防・援助 討議・発表				【事前】 ・紙上事例の事前学修（1時間）			菅原 尚美 桑田 恵美子 齋藤 美華		
15	【反転授業】紙上事例の展開に基づく高齢者の援助の実際： 皮膚障害のアセスメント・予防・援助の実際 討議・発表				【事後】 ・事後レポートの作成と提出（1時間）			菅原 尚美 桑田 恵美子 齋藤 美華		
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版 『カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術』大塚眞理子編著、医歯薬出版株式会社									
参考文献	『手技と事例で学ぶ 実践！高齢者のフィジカルアセスメント—老化を理解して、異常を見逃さない！』 角濱春美著、メディカ出版 『要点がわかる出題傾向がみえる老年看護学（看護師国家試験対策）』吉村雅世著、PILAR PRESS									
備考	* 授業内課題は事後レポート、授業後学び、小テストで評価し、次回の授業でフィードバックします。 * 演習は事例を取り上げ、事例を通して各単元ごとの理解を深め、アセスメント力を鍛えます。 * 反転授業とは、知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認の要素を教室で行う授業形態です。事前に授業外で学修を済ませ、授業内で討議、発表を通して意見交換を行うことで学びを深め、かつ主体的な学修ができることを期待します。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
 看護師として実務経験がある。高齢者とその家族への臨床経験を生かし、授業に活用して学生の理解を深めるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-02				
	●									
科目名	小児看護学援助論 I				単位認定者	飯沼 一字 佐藤 幸子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		20 時間	受講態度
							授業回数		10 回	
授業の概要	小児特有の疾患の病態・検査・治療に関する基礎的知識とその知識を基に主な疾患の基本的な看護を学び、小児看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 子どもの代表的疾患について、病態・治療が理解できる。 2. 1の知識を基に、その疾患や子どもの特徴に合わせた看護が説明できる。									
学修者への期待等	1年次に学んだ人体構造と機能を十分理解し、それを基に疾患について病態を考える態度で授業に臨むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	小児科とは				【事前】小児が大人(成人)とどのように異なるかを十分に理解すること。小児医療の概要を理解する。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
2	先天異常・遺伝病 新生児疾患/呼吸器・循環器疾患				【事前】胎児の発達、遺伝の仕組み、新生児特有の生態、小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
3	免疫・アレルギー疾患・自己免疫疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
4	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
5	消化器・内分泌疾患				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組みについて理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
6	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か(悪性と良性の相違)を理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
7	腎・泌尿器および生殖器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
8	神経・筋・運動器疾患・精神疾患				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。この問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。(概ね30分以上) 【事後】小テスト			飯沼 一字		
9	呼吸器・循環器疾患をもつ子どもとその家族への看護				【事前】教科書の第7章・8章を予習して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト			佐藤 幸子		
10	小児がんの子どもとその家族への看護				【事前】教科書の第11章を予習して臨む(概ね30分) 【事後】小テスト			佐藤 幸子		
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦他監修、講談社 『発達段階からみた 小児看護過程』石黒彩子他編、医学書院									
備考	授業内課題(小テスト)については、授業内でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業では代表的疾患の病態・治療を理解した上で各疾患への基本的な看護を学修する。そのため教員は、医療者として小児医療に携わった実務経験を活かし病態治療・看護を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-03				
	●	●								
科目名	小児看護学援助論Ⅱ				単位認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	小児に多く見られる症状（発熱・脱水・痙攣・呼吸困難・痛み）、経過別（急性期（事故対応救急対応含む）・慢性期）、特殊な状況（隔離・安静・虐待）におけるアセスメントの視点や小児特有の援助技術の方法（一次救命処置・プレパレーション・与薬方法・持続点滴管理・身体抑制等）を学び、小児看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 小児の健康障がいによって生じる問題を適切にアセスメントし、その援助方法が説明できる。 2. 小児に対して行う援助技術の方法を理解し、モデル人形等を使って実施できる。									
学修者への期待等	小児は同じ援助方法でも注意すべき点が異なるため、よく小児の特徴を理解して学修して欲しい。そのため小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰなど既習の知識を復習し、根拠を確認しながら学んでいく事を臨む。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 授業ガイダンス 子どもにとっての良好な療養環境を整えるための援助（コミュニケーション・環境整備）				【事前】教科書や書籍・インターネット等を使って小児専門病院・小児病棟をイメージ化して臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
2	【講義】 入院中の子ども・家族の理解及び看護 子どもに生じやすい症状への看護Ⅰ （発熱・嘔吐下痢・脱水）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と発熱・下痢嘔吐・脱水の関連性を復習（概ね30分）			武田 美奈子		
3	【講義】 子どもに生じやすい症状への看護Ⅱ （痙攣・痛み・呼吸困難）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と痙攣・呼吸困難の関連性を復習（概ね30分）			武田 美奈子		
4	プレパレーションの実際① グループワーク				【事前】教科書「動画一覧」採血時のプレパレーションを視聴しておく（概ね30分）			佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
5	プレパレーションの実際② 発表									
6	【講義】 生活制限の必要な子どもとその家族への看護 （感染予防・隔離中の看護）				【事前】教科書各論の第6章A③を予習して臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
7	【講義】 外来における子どもと家族への看護				【事前】教科書総論の第2章B外来における子どもと家族の看護を読み、小児外来のイメージを持って臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		
8	【講義】 急性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Bを読み急性期の概念を復習し、急性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		
9	小児の救急蘇生法				【事前】教科書総論の第6章⑩を読み予習、さらに「動画一覧」救命処置を視聴しておく（概ね30分） 【事後】小テスト/感想等まとめあり			佐々木 重徳 佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
10	【講義】 慢性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Aを読み慢性期の特徴を捉え、慢性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			佐藤 幸子		
11	【講義】 検査・処置を受ける子どもの看護 （与薬・輸液管理・抑制・検体採取他）				【事前】教科書総論の第6章A～C⑨までを読み予習し、検査・処置を受ける子どもの気持ちを考えて臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		

回	授業計画		担当
12	治療・処置に対する援助技術の実際① 診察・検査時の安全安楽な援助	【事前】事前学習ワークシートを学修のうえ臨む（概ね60分） 【事後】学びを整理しレポートを提出（概ね60分）	佐藤 幸子 岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 坂村 佐知 鹿野 ひとみ
13	治療・処置に対する援助技術の実際② 持続点滴中の看護・与薬の工夫、子ども体験他		
14	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 児童虐待	【事前】教科書総論の第8章を読み予習して臨む（概ね30分）	佐藤 幸子
15	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 ・先天性疾患・心身障がいのある子どもとその家族への看護 ・災害にあった子どもとその家族への看護	【事前】教科書総論の第2章D・第7章を読み予習して臨む（概ね30分）	武田 美奈子
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院		
参考文献	『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編集、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護』中野綾美編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術』中野綾美編、MCメディカ出版 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監修、インターメディカ		
備考	※授業内課題は、演習後に小テストやレポートによって評価する。 ※授業内課題は次回の講義時にフィードバックする。 ※演習はABの2クラス編成で行う。但し「プレパレーション」演習は全クラスで行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業では、小児看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学修する。そのため教員は医療従事者での実務経験を活かし、臨床現場で活用できる授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-WHN-02			
	●								
科目名	母性看護学援助論 I				単位認定者	田辺 圭子		試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内課題	20 %
						授業時間数	20 時間	受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	女性のライフステージ各期の特徴的な女性生殖器疾患の病態・検査・治療、看護の役割と責務、看護実践するために必要な基礎的知識、周産期（妊娠期・分娩期）の正常経過を学び、母性看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
到達目標	1. 女性生殖器の構造と機能を理解する。 2. 女性生殖器疾患の病態生理・検査方法・治療方法を理解する。 3. 女性生殖器疾患を持つ患者の看護を考えることができる。 4. 正常な妊娠・分娩経過を理解する。								
学修者への期待等	人体構造と機能Ⅲ・母性看護学概論で学んだ知識を想起しながら、病態生理・治療・看護を関連付けて理解できるよう努力してほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	女性生殖器の構造と機能 性周期と性ホルモン				【事前】生殖器の各部位の名称と解剖学的位置関係を復習して臨む（概ね1時間）			田辺 圭子	
2	症状とその病態生理				【事前】教科書①第3章を予習して臨む（概ね30分）			田辺 圭子	
3	診察・検査と治療・処置				【事前】教科書①第4章を予習して臨む（概ね1時間）			田辺 圭子	
4	性成熟・生殖とその異常 性分化のメカニズム、性分化疾患、妊娠の成立、不妊症、不育症、異所性妊娠、出生前診断、避妊、性交障害他				【事後】各疾患の病態を理解し、診断・検査・治療方法を復習する（概ね1時間）			田辺 圭子	
5	女性生殖器の疾患 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、乳腺炎、乳癌他							田辺 圭子	
6	加齢に伴う変化とその異常 脂質異常、閉経、骨粗鬆症、更年期障害、外陰炎、萎縮性膣炎、骨盤臓器脱、下部尿路障害他							田辺 圭子	
7	女性生殖器疾患をもつ患者の看護、グループワーク				【事前】思春期・成熟期・更年期・老年期の特徴を復習して臨む（概ね1時間）			佐藤 理恵	
8	妊娠の生理Ⅰ 妊娠期の身体的特性				【事前】教科書②第3章を予習して臨む（概ね1時間）			田辺 圭子	
9	妊娠の生理Ⅱ 妊娠期の検査とその目的							田辺 圭子	
10	分娩の生理 分娩の要素				【事後】分娩の三要素を復習する（概ね1時間）			田辺 圭子	
教科書	①『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器』末岡浩他著、医学書院 ②『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院								
参考文献	『病気がみえるvol.9 婦人科・乳腺外科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア								
備考	授業内課題（小テスト等）は次回の講義時にフィードバックする。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

助産師（病院等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、女性生殖器の病態生理と治療・看護、周産期の正常経過について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-WHN-03				
	●	●								
科目名	母性看護学援助論Ⅱ				単位認定者	佐藤 理恵 坂村 佐知		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
							授業回数		30 時間	受講態度
				授業形態	演習	15 回				
授業の概要	周産期の正常経過と正常からの逸脱の知識、妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴と支援方法(レオポルド触診法・胎児心拍聴取・育児技術・新生児観察・沐浴)及びセルフケア能力が維持・促進できる支援方法を学び、母性看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の正常な経過と逸脱について理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を学び、その看護について理解できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦のセルフケア能力が維持・促進できる看護支援について理解できる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の看護支援方法が理解できる。 									
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えることができるように学修を深めて欲しい。また、母性看護学特有の看護援助技術について、積極的に学修する姿勢で臨むことを期待する。									
回	授業計画			準備学修				担当		
1	【講義】授業ガイダンス 妊娠期における看護 妊娠期の心理・社会的特性/妊婦と家族の看護			【事前】援助論Ⅰの妊娠の生理を復習して授業に臨む(概ね1時間)				田辺 圭子		
2	【講義】妊娠期の異常と看護 ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫流早産、妊娠貧血他			【事前】教科書第7章(P.380-422)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				田辺 圭子		
3	【実技】分娩期における看護 産婦・胎児、家族の看護の実際			【事前】正常な分娩経過を復習して授業に臨む(概ね1時間)				田辺 圭子		
4	【講義】分娩期の異常と看護 分娩3要素に関する異常、異常出血、産科処置・手術、胎児機能不全他			【事前】教科書第7章(P.423-489)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				田辺 圭子		
5	【実技】妊婦・産婦の看護にかかわる実技の実際① レオポルド触診法、胎児心拍聴取、妊婦体験			【事前】レオポルド触診法・胎児心拍聴取部位を事前学修して演習に臨む(概ね1時間)				田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 武田 美奈子 岡崎 草代夏 畑中 晶子		
6	【実技】妊婦・産婦の看護にかかわる実技の実際② 妊娠経過表作成、産痛緩和法			【事後】演習課題レポートを作成する(概ね1時間)						
7	【講義】産褥期における看護Ⅰ 産褥期の身体的変化、心理・社会的変化			【事前】教科書第6章(P.322-378)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				佐藤 理恵		
8	【講義】産褥期における看護Ⅱ 褥婦と家族への看護							佐藤 理恵		
9	【講義】産褥期の異常と看護 子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、乳腺炎、産後精神障害、下部尿路障害他			【事前】教科書第7章(P.514-535)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				佐藤 理恵		
10	【講義】新生児期における看護Ⅰ 新生児の生理			【事前】教科書第5章(P.262-281)を予習して授業に臨む(概ね1時間)				坂村 佐知		

回	授業計画	準備学修	担当
11	【実技】 新生児期における看護Ⅱ 出生直後から生後1か月までの看護	【事前】 教科書第5章 (P. 281-320) を予習して授業に臨む (概ね1時間)	坂村 佐知
12	【講義】 新生児期の異常と看護 呼吸障害、循環障害、代謝障害、高ビリルビン血症、低出生体重児他	【事前】 教科書第7章 (P. 489-514) を予習して授業に臨む (概ね1時間)	坂村 佐知
13	【実技】 褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際① 育児技術 新生児の抱き方・寝かせ方、衣類の着脱、オムツ交換 授乳姿勢と排気法	【事前】 指定された動画を視聴し演習に臨む (概ね30分) 【事後】 演習課題レポートを作成する (概ね1時間)	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 畑中 晶子
14	【実技】 褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際② 新生児の観察・清潔 (沐浴)	【事前】 新生児の観察方法と沐浴方法を事前学修して演習に臨む (概ね1時間) 【事後】 演習課題レポートを作成する (概ね1時間)	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 武田 美奈子 岡崎 草代夏 畑中 晶子
15	【実技】 褥婦・新生児の看護にかかわる実技の実際③ 退院に向けての保健指導		
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院		
参考文献	『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編集、医学書院		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細な講義スケジュールについては、第1回講義時に説明する。また、講義との調整のため演習日程が変更となる可能性がある。 ・ 演習事前事後課題は指定された日時までに提出する。 ・ 確認テスト (小テスト) を不定期に実施する。 ・ 授業内課題は次回の授業時にフィードバックする。 ・ 第5回、6回、13回、14回、15回の演習はABの2クラス編成で行う。 		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

助産師 (病院等の5年以上勤務) としての実務経験を生かし、周産期における母子とその家族へ具体的支援について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地理理解力	NS-2-PMN-02				
	●		●							
科目名	精神看護学援助論 I				単位認定者	濱崎 諒介 阿部 幹佳		試験（筆記）	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	10 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	精神的健康問題を持つ人の様々な問題、精神疾患の病態と検査・治療、援助関係の基本および患者-看護師関係の基本的要素と成立の重要性について学び、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な精神疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 看護の対象者を全人的に把握するための看護の視点を理解する。 3. 患者-看護師関係の基本的要素と成立の重要性を理解できる。 									
学修者への期待等	精神障害（疾患）と対象者を援助するための看護の基本について学修します。こころの病気は誰でもかかるものです。日頃からこころの病気に関心を持ち、身近な病気だということを授業を通して理解しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	精神障害の原因と分類				【事前】教科書①P1～22を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
2	症状性を含む器質性精神障害				【事前】教科書①P37～51を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
3	精神作用物質使用による精神および行動の障害				【事前】教科書①P59～74を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
4	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害				【事前】教科書①P74～88を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
5	気分（感情）障害				【事前】教科書①P88～98を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
6	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現障害				【事前】教科書①P99～107を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
7	生理的障害および身体的要因に関した行動障害				【事前】教科書①P107～112を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
8	成人のパーソナリティおよび行動の障害／てんかん				【事前】教科書①P112～118、P54～59を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
9	知的障害／心理発達の障害／小児期及び青年期に発症する行動および情緒の障害				【事前】教科書①P118～130を読む（概ね1時間）			濱崎 諒介		
10	患者-看護師関係の成立 ・患者-看護師の成立				【事前】教科書②P26～29、P163～175を読む（概ね1時間） 【事後】LMS小テスト（概ね30分）			阿部 幹佳		
教科書	①『学生のための精神医学』太田保之他編、医歯薬出版株式会社 ②『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子他編、MCメディカ出版									
参考文献	『看護のための精神医学』中井久夫他著、医学書院									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内課題はLMS内小テスト（10%）への取り組みで評価する。 ・授業内課題の小テストについては、LMSでフィードバックする。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

医師、看護師（病院等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、精神疾患及び障害、精神科看護の実践について、学生の理解を深められるように授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-PMN-03				
	●		●	●						
科目名	精神看護学援助論Ⅱ				単位認定者	阿部 幹佳		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	精神看護実践の知識と技術を学ぶために、主な精神疾患の看護と入院形態、病棟環境の整備と行動制限、暴力への対応、多職種連携の必要性、プロセスレコードの記述を通して自己洞察していくことの重要性について学び、心のケアが必要な人々に対する精神看護の実践能力を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 安全な治療環境を提供するための方法を説明できる 統合失調症患者、気分障がい患者、精神作用物質使用患者の看護について説明できる 精神疾患・障がいがある者の社会参加への支援について説明できる 精神保健医療福祉における多職種連携の必要性を理解できる 自己の傾向を把握するためにプロセスレコードを記載できる 									
学修者への期待等	精神障害(疾患)とそのケアの実際について学修します。精神科看護の対象者を1人の人間として身体、心理、社会・スピリチュアルという全人的視点から捉えられるようになることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	治療の場としての精神科病棟 ・治療的環境 ・治療的人間関係とのかかわり ・精神科病棟の環境とリスクマネジメント				【事前】教科書②5章、6章を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
2	統合失調症(急性期)の看護				【事前】教科書②1章3、9章2を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
3	統合失調症(慢性期)の看護				【事前】教科書②1章、9章2を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
4	薬物療法と看護				【事前】教科書③6章6を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
5	精神保健活動と精神科リハビリテーション				【事前】教科書②7章2を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			加藤 真理子		
6	精神保健活動と社会資源の活用				【事前】教科書②7章3、4を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			加藤 真理子		
7	治療を受ける人への看護				【事前】教科書②3章を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
8	気分(感情)障害をもつ人の看護				【事前】教科書②1章4、9章4を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
9	精神作用物質使用による精神および行動の障害をもつ人の看護				【事前】教科書②1章12、教科書①8章を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		
10	不安障害、強迫性障害をもつ人の治療と看護				【事前】教科書②1章5、6、9章5を読む(概ね1時間) 【事後】LMS小テスト(概ね30分)			阿部 幹佳		

回	授業計画	準備学修	担当
11	摂食障害、パーソナリティ障害をもつ人の治療と看護	【事前】教科書②1章10、14、9章3、6を読む（概ね1時間） 【事後】LMS小テスト（概ね30分）	加藤 真理子
12	自殺未遂・企図の理解と対応	【事前】教科書②8章を読む（概ね1時間） 【事後】LMS小テスト（概ね30分）	阿部 幹佳
13	【グループワーク、ディスカッション】 発達障害をもつ人の支援	【事前】教科書②1章2を読む（概ね1時間） 【事後】LMS授業后感想（概ね30分）	西田 有吾 阿部 幹佳
14	精神看護学実習に向けて ・精神科看護学実習とは ・実習記録、カンファレンスの意義	【事前】教科書②10章1、3、4を読む（概ね1時間） 【事後】LMS小テスト（概ね15分）	阿部 幹佳
15	【演習】 プロセスレコードの実際	【事前】教科書②10章2、教科書③VI章⑤を読む（概ね1時間） 【事後】プロセスレコード（概ね30分）	阿部 幹佳
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 精神看護学①：情緒発達と精神看護の基本』出口禎子編、MCメディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 精神看護学②：精神障害と看護の実践』出口禎子編、MCメディカ出版 ③『精神看護学実習ハンドブック』草地仁史他編、中央法規		
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美・白波瀬裕美編著、日総研		
備考	・授業内課題は小テスト（15%）への取り組み、授業后感想（5%）、プロセスレコード（10%）で評価する。 ・授業内課題の小テストはLMS、授業后感想は次回授業時、プロセスレコードは精神看護学実習時にフィードバックする。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

看護師（病院等に5年以上勤務）としての資格、経験より、精神科看護の実際を具体的に説明する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-01				
	●			●						
科目名	医療安全管理論				単位認定者	阿部 春美		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	50 %
				授業形態	講義	授業時間数	16 時間			
						授業回数	8 回			
授業の概要	医療事故に伴う看護職の法的責任、国の医療安全対策の背景、組織としての医療安全に取り組む意義と体制、ヒューマンエラーの知識を活用した事故防止策、感染症発生動向と感染防止対策の現状、組織における感染管理に関する組織体制、感染管理業務の概要、感染管理認定看護師の役割を学び、医療人としての倫理観に基づく医療安全に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故に伴う看護職の法的責任と倫理について説明できる。 2. 国の医療安全対策の背景、組織としての医療安全に取り組む意義と体制について説明できる。 3. ヒューマンエラーの知識を活用した事故防止策について説明できる。 4. 組織における感染管理に関する組織体制、感染管理業務の概要を説明できる。 									
学修者への期待等	医療安全に関する社会の動きや日常のヒューマンエラーに関心を持ち、臨地実習のイメージを基に主体的に学修して欲しい。									
回	授業計画				準備学修					
1	医療安全の意義と重要性【ディスカッション】				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
2	医療安全の取り組みと医療の質評価				【事後】「医療事故の患者家族から看護学生へのメッセージ」を読みレポートを作成。(概ね1時間)					
3	事故発生メカニズムとリスクマネジメント【グループワーク】				【事前】配布課題「過去の主となる医療事故」について学習し、疑問点をレポートにまとめる(概ね1時間)					
4	チームで取り組む安全文化の醸成【体験学修】				【事後】小テスト・授業後学び(概ね30分)					
5	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策				【事後】授業後の学び(概ね2時間) 授業後提出あり					
6	看護業務に関連する事故と安全対策【グループワーク】				【事後】授業後の学び(概ね30分)					
7	医療安全及び感染予防に関する危険予知トレーニング【グループワーク】				【事後】小テスト					
8	医療安全に関する危険予知トレーニング【発表】 医療安全管理論のまとめ				【事後】危険予知トレーニング事例の課題レポート作成(概ね1時間)					
教科書	『ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践②：医療安全』松下由美子他編、MCメディカ出版									
参考文献	授業内で適宜紹介します。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題について調べ主体的に学修に参加するアクティブラーニングを取り入れながら授業を進める。 ・授業内課題は第2、3、8回のレポートで評価し、適宜フィードバックする。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医療安全管理者、病院看護管理者、認定看護管理者の経験を生かして、医療安全の基本について学生の理解が深められるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-02				
	●	●			●					
科目名	災害看護				単位認定者	高橋 由美 泉田 さとみ		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態		演習		授業時間数	30 時間
							授業回数			15 回
授業の概要	災害の種類と特徴、災害医療の概要、災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護、災害時のトリアージ、応急処置、搬送法、避難所の開設・運営、要配慮者への対応を学び、災害看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 災害看護の概要と災害サイクルに応じた看護の役割を説明できる 2. 災害時のトリアージ、応急処置の方法について説明できる 3. 災害時の搬送法の知識・技術を修得し、学生間で実施できる 4. 災害時の避難所の開設・運営、要配慮者への対応について学び、必要な生活環境を整えることができる									
学修者への期待等	東日本大震災の被災地で災害看護を学ぶにあたり、被災地は基より、地域社会の情勢に関心を向けること。また、応用力、想像力、創造力を発揮し、主体的に学んでほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	災害看護授業ガイダンス 【講義】災害・災害看護とは、災害看護の歴史、防災計画とシステム、災害医療の支援、災害に関する法律				【事前】2章-A・Bについて予習しておくこと			高橋 由美		
2	【反転授業】災害サイクルに応じた看護①災害直後と急性期				【事前】2章-C・D①について予習しておくこと 事前課題の提出(30分程度)			泉田 さとみ		
3	【反転授業】災害サイクルに応じた看護②亜急性期							泉田 さとみ		
4	災害時の看護の実際 災害トリアージ・応急処置：机上訓練・グループワーク				【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美		
5	災害時の看護の実際 搬送法：体験学修・グループワーク									
6	【反転授業】発災直後から亜急性期の災害看護の実際				【事前】授業について復習し、災害直後から災害亜急性期までの健康問題を考えること 事前課題の提出(30分程度)			泉田 さとみ		
7	【講義】災害サイクルに応じた看護③中長期				【事前】2章-D②について予習しておくこと			高橋 由美		
8	【講義】災害とこころのケア				【事前】2章-Fについて予習しておくこと(1時間程度)			阿部 幹佳		
9	災害時の看護の実際 支援者のストレスマネジメント				【事前】平時の自身のストレスへの対処法を考えておくこと			阿部 幹佳		
10	【講義】東日本大震災におけるこころのケア活動				【事前】8回の授業について復習しておくこと。参考文献(2)7章-7とともに学修する(1時間程度)、【事後】LMS上感想			岡崎 茂 阿部 幹佳 泉田 さとみ		
11	災害時の看護の実際① 実技ガイダンス				【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美		
12	災害時の看護の実際② 避難所の開設・運営：要援助者対応・グループワーク							高橋 由美		
13	災害時の看護の実際③ 避難所の開設・運営：生活環境整備・グループワーク							高橋 由美		
14	発表準備・グループワーク				【事後】講義・演習を基に考察し、レポートを作成する(3時間程度)			高橋 由美		
15	学修成果発表プレゼンテーション・まとめ									
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学』浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3)：災害看護』酒井明子編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1) 情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2) 精神障害と看護の実践』出口禎子他編、MCメディカ出版 『災害看護 心得ておきたい基本的な知識』小原真理子他編、南山堂									
備考	・4・5回目、12～15回目の演習担当：泉田さとみ、阿部幹佳、坂村佐知、手塚有希子 ・授業内課題はレポート課題(40%)、授業後感想(10%)で評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床現場(病院等に5年以上勤務)、地域・被災者支援の経験を持つ教員が、災害の発生に備えて、地域と密着した災害発生時の対応について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-04				
	●									
科目名	看護研究 I				単位認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		16 時間	
							授業回数		8 回	
授業の概要	看護研究のための倫理原則、文献レビューとその方法、論文作成の方法、論文の構成・記載時の注意点・考察の視点などについて学び、看護研究に取り組むための基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 看護研究の意義、方法、研究プロセスを説明できる 2. 看護研究における倫理的配慮と倫理原則について説明できる 3. テーマに関する文献を検索して整理することができる 4. 研究成果を公表する方法について説明できる									
学修者への期待等	事前に教科書を予習して授業に臨み、授業後は復習して理解を深めてください。3年次開講の「看護研究Ⅱ」を履修する上での基礎となる科目です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護研究導入 研究とは、看護研究の意義・役割				教科書「看護研究とは」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子		
2	看護研究のプロセス				配布資料を見直して授業を復習し理解を深めてください（30分間程度）			小林 淳子		
3	研究における倫理原則・倫理的配慮				教科書「研究における倫理的配慮」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子		
4	看護研究の方法				教科書「研究デザイン」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子		
5	ケースレポートと事例研究				教科書「ケースレポート・事例研究の進め方」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子		
6	文献検索の意義と方法				教科書「情報の検索と吟味」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子 坂村 佐知		
7	文献検索の実際：キーワード検索による体験学修				前回配布資料を見直して臨み、検索した文献を整理して理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子 坂村 佐知		
8	研究成果公表の意義・方法				教科書「研究を伝える」を予習して臨み、授業を復習し理解を深めてください（各30分間程度）			小林 淳子		
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	『文献レビューのきほん』大木秀一著、医歯薬出版株式会社 『看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル』富田美加他著、中央法規									
備考	授業内課題は提出物（毎回の授業）で評価し、適宜フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師（自治体等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、看護実践と看護研究との関係性、看護研究の基礎について理解が深められるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-03			
		●	●	●	●				
科目名	地域・在宅看護論実習 I				単位認定者	小林 淳子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		
							授業回数		
授業の概要	地区視診を通して地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題を把握する方法や多様な場、健康段階、発達段階を踏まえた対象のニーズの把握方法を学び、地域・在宅看護の実践に必要な基礎的能力を身につける。								
学修者への期待等	地域で暮らす様々な対象の生活環境や健康との関連をアセスメントし、地域・在宅看護の基礎的な実践能力を身につける実習です。これまで積み上げてきた学修を振り返り、実習の目的を意識して主体的に臨みましょう。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年9月30日（月）～10月4日（金）</p> <p>II. 実習施設：老人福祉センター（台原・高砂・大野田・郡山・泉中央）・あかねグループ、障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター、のびすく仙台・のびすく若林</p> <p>III. 実習目的：地域に暮らす様々な対象や活用可能な資源について理解する能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解できる。 2. 地域に暮らす様々な対象の活用可能な資源を理解できる。 3. 看護職を目指す学生として倫理観と責任を認識した行動ができる。 <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーション 2) 学修成果発表・実習のまとめ 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉センターまたはあかねグループ・フィールドワーク 2) 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター・フィールドワーク 3) のびすく仙台またはのびすく若林（母子支援施設）・フィールドワーク 									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディカ出版								
参考文献	『国民衛生の動向 2022/2023』厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス								
備考	詳細は後日配布する実習要項参照 担当者：専任教員 小林淳子、高橋由美、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子 非常勤講師 江口美知子								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師（自治体等に5年以上勤務）としての実務経験を生かし、地域の多様な場の看護と対象の理解が深められるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-05			
		●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	岡崎 優子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間
							授業回数		集中
授業の概要	慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる看護過程の展開と役割を学び、領域を横断する看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	基礎看護学や成人看護学概論・成人看護学援助論Ⅰ、老年看護学概論・老年看護学援助論Ⅰでの学修をもとに、実習目的を意識して臨んでほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年8月19日（月）～9月21日（土） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台厚生病院、仙台市立病院、東北医科薬科大学病院、東北医科薬科大学若林病院、宮城県立がんセンター</p> <p>III. 実習目的：慢性的な健康問題や治療によりストレス・危機状況にある患者・家族に対し、既習内容を統合した看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康問題を持つ患者の看護過程が展開できる 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる <p>V. 実習計画：実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断看護実習オリエンテーション 2) 慢性的な健康問題にある患者の看護過程の展開と、必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、レポートにまとめることで実習での学びと自己の課題を明らかにする。 									
教科書	『看護データブック』新井治子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に指示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀、木下美佐子、二口尚美、佐藤理恵、佐藤由記子、佐藤清湖、佐々木重徳、加藤真理子 非常勤講師 大石慶子、松田郷子、菊池真紀子、江口美知子								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の臨床経験を持つ教員が担当する。慢性的な健康問題を持つ人と療養生活を支える人たちに真摯に向き合い、健康とは何か、看護とは何か、さまざまな角度から考えられるように教授する。

看護学科

3年生

- 年間予定表
- シラバス

2024年度 看護学科3年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土						
4月		1	2	オリエンテーション	3	(入学式)	4	1	5	1	6			
	7	8	1	9	1	10	1	健康診断	11	2	12	2	13	
	14	15	2	16	2	17	2	18	3	(合同体育祭)	19	3	20	
	21	22	3	23	3	24	3	25	4	26	4	27		
	28	29		30	4	1	4	2	領域別実習	3		4		
5月	5	6		7	領域別実習	8	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11		
	12	13	4	領域別実習	14	領域別実習	15	領域別実習	16	領域別実習	17	領域別実習	18	
	19	20	5	領域別実習	21	領域別実習	22	領域別実習	23	領域別実習	24	領域別実習	25	
	26	27	6	領域別実習	28	領域別実習	29	領域別実習	30	領域別実習	31	領域別実習	1	
6月	2	3	7	領域別実習	4	領域別実習	5	領域別実習	6	領域別実習	7	領域別実習	8	
	9	10	8	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14	領域別実習	15	
	16	17	9	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21	領域別実習	22	
	23	24	10	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28	領域別実習	29	
	30	1	11	領域別実習	2	領域別実習	3	領域別実習	4	領域別実習	5	領域別実習	6	
7月	7	8	12	領域別実習	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	
	14	15		16	領域別実習	17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20		
	21	22	13	領域別実習	23	領域別実習	24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	(保護者会)
	28	29	14	領域別実習	30	領域別実習	31	領域別実習	1	領域別実習	2	領域別実習	3	
8月	4	5		6		7		8		9		10		
	11	12		13		14		15		16		17		
	18	19		20		21		22		23		24		
	25	26		27		28		29		30		31		
9月	1	2		3		4		5		6		7		
	8	9	領域別実習	10	領域別実習	11	領域別実習	12	領域別実習	13	領域別実習	14		
	15	16		17	領域別実習	18	領域別実習	19	領域別実習	20	領域別実習	21		
	22	23		24	領域別実習	25	領域別実習	26	領域別実習	27	領域別実習	28		
	29	30	領域別実習											

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 看護学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月				1 領域別実習	2 領域別実習	3 領域別実習	4 領域別実習	5
	6	7 領域別実習	8 領域別実習	9 領域別実習	10 領域別実習	11 領域別実習	12	
	13	14	15 領域別実習	16 領域別実習	17 領域別実習	18 領域別実習	19	
	20	21 領域別実習	22 領域別実習	23 領域別実習	24 領域別実習	25 領域別実習	26 せいよう祭	
	27	28 領域別実習	29 領域別実習	30 領域別実習	31 領域別実習	1 領域別実習	2	
11月	3	4	5 領域別実習	6 領域別実習	7 領域別実習	8 領域別実習	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25 統合実習	26 統合実習	27 統合実習	28 統合実習	29 統合実習	30	
12月	1	2 統合実習	3 統合実習	4 統合実習	5 統合実習	6 統合実習	7	
	8	9 統合実習	10 統合実習	11 統合実習	12 統合実習	13 統合実習	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
1月	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31	1	
2月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	1	
3月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18 卒業式	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-03				
	●			●						
科目名	看護管理論・国際看護				単位認定者	阿部 春美		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	看護管理論は、組織の看護サービスの質を向上させる活動体制、看護管理の対象とその活用、労働者の果たすべき責任、労働者を守る体制、チーム医療及び他職種との協働、看護組織の業務を行う一員としての役割や責任について学び、看護管理の基礎的知識を身につける。国際看護は、国境を超えて広域的に発生する健康問題の現状や国際社会・多様な文化における看護職の役割について学び、国際看護の実践に必要な基礎的知識を身につける。									
到達目標	1. 看護管理の本質と看護管理の過程について説明できる 2. 資源としての人材、物品、予算、時間、情報のマネジメントについて説明できる 3. 看護管理に関わる法律・制度とリーダーシップ、メンバーシップについて説明できる 4. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べるができる									
学修者への期待等	1. 看護・医療に関する社会の動きについて関心を向けてほしい。 2. 統合実習の基礎となる科目である。問題意識を持って能動的に学ぶ姿勢を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	看護管理を学ぶ意義 組織とマネジメント【ディスカッション】				【事後】小テスト、授業後の学び(概ね30分)					
2	看護サービスのマネジメント				【事前】就職/進学希望施設の組織体制・理念について、調べてくること(概ね30分) 【事後】小テスト(概ね30分)					
3	看護の質保証と資源管理				【事後】小テスト(概ね40分)					
4	日本の医療制度と看護に関わる法律制度				【事後】小テスト(概ね40分)					
5	看護職における人材育成【ディスカッション】 キャリアデザインと働き方のマネジメント				【事後】レポート課題 キャリアイメージ「なりたい私」についてまとめる(概ね1時間)					
6	チーム医療、他職種との共同 看護におけるリーダーシップ・メンバーシップ 【ディスカッション】				【事後】授業後の学び(概ね1時間)					
7	安全管理のしくみ(組織体制、チーム医療における コミュニケーション)【事例展開によるグループ ワーク】				【事前】既習科目の医療安全管理論を復習してく ること					
8	国際看護(国際看護学の概要、看護の国際協力の仕 組みと看護活動)				【事後】小テスト(概ね40分)					
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理』上泉和子他著、医学書院 『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学』浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	授業内で適宜紹介します。									
備考	授業内課題は小テスト(10%)、事後課題レポート(30%)で評価する。 授業内課題(小テスト)については、次回講義時にフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

病院看護管理者、認定看護管理者、医療安全管理者の経験を生かして、看護のしくみを理解できるように教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-05				
		●		●						
科目名	看護研究Ⅱ				単位認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	10 %
					授業形態	演習	授業時間数		16 時間	受講態度
						授業回数	8 回			
授業の概要	実際にケースレポートや論文作成を通して、看護の質向上のために自らの看護実践を省察し研鑽し続けるために看護研究を行う基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 臨地実習で学んだ看護実践を客観的に振り返り、文献を活用しながら自己の看護実践の効果と課題を明確にしてケースレポートを作成することができる。 2. ケースレポートに基づき口頭発表用のパワーポイント (ppt) の作成ができる。									
学修者への期待等	「看護研究Ⅰ」の学修内容を復習して臨んで下さい。臨地実習における自身の看護実践の効果と課題を考察し、看護実践能力向上につながるケースレポートとなることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護研究Ⅱ ガイダンス ケースレポートの意義・作成のプロセス				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、本授業内容を復習し理解を深めてください (各30分間程度)			小林 淳子		
2	ケースレポート：ケース選択				前期領域実習の受け持ち事例を振り返って臨み、選択した事例の実習記録を確認して下さい (各30分間程度)			小林 淳子		
3	ケースレポート：テーマ検討・決定				選択した事例の実習記録を確認して臨み、指導担当教員決定後連絡を取り助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
4	ケースレポート：文献検索				「看護研究Ⅰ」6・7回目の授業を復習して臨み、指導担当教員の助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
5	ケースレポート：看護実践の経過				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
6	ケースレポート：考察・結論・まとめ				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受け、ケースレポートを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
7	プレゼンテーション：口頭発表の方法				「看護研究Ⅰ」8回目の授業を復習して臨み (30分間程度)、プレゼンテーション用のpptを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
8	プレゼンテーション：口頭発表				作成したppにより練習をしてプレゼンテーションに臨んでください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知		
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	『文献レビューのきほん』大木秀一著、医歯薬出版株式会社 『看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル』富田美加他著、中央法規									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題は7回目プレゼンテーション用ppt (10%) で評価する。 受講態度は発表会参加状況 (10%) で評価する。 ケースレポート作成においては随時指導担当教員がフィードバックを行う。 指導担当教員： 高橋由美、阿部春美、木下美佐子、佐藤幸子、齋藤美華、田辺圭子、佐藤由記子、岡崎優子、菅原尚美、佐藤理恵、武田美奈子、阿部幹佳、真湊淳子、二口尚美、佐藤清湖、佐々木重徳、泉田さとみ、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、加藤真理子、手塚有希子、小倉真紀 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目 (実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師 (自治体等に5年以上勤務) としての実務経験を生かし、看護実践に基づくケースレポート作成について理解が深められるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-04			
		●	●	●	●				
科目名	地域・在宅看護論実習Ⅱ				単位認定者	高橋 由美		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	地域で療養する人々とその家族のニーズをとらえ、地域包括ケアシステムにおける看護活動など多様な場に応じた看護活動の実践について学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	地域で療養する様々な対象や多様な場に応じた看護活動の実践を学び、地域・在宅看護の実践能力を身につける実習です。既修内容を振り返り、実習の目的を意識して主体的に臨みましょう。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年5月13日（月）～11月1日（金） 1グループ2週間</p> <p>II. 実習施設：訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護・障害児通所支援施設</p> <p>III. 実習目的：地域で療養している人々とその家族に対し、既修内容を統合した地域・在宅看護実践能力を養う</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で療養する人々とその家族を理解する 2. 地域で療養する人々とその家族への看護支援の実際を学ぶ 3. 多様な場に応じた看護活動や多職種連携の実際について学ぶ 4. 実習を通して、在宅療養者・児やその家族のセルフケア能力及びQOLを高めるために必要な支援について考察する <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーション 2) 看護技術学習 3) 看護過程学習 4) 実習まとめ 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーション：指導者との同行訪問を通して在宅看護の実際を学ぶ 2) 看護小規模多機能型居宅介護：施設の特徴や多職種連携の実際を学ぶ 3) 障害児通所支援施設（放課後等デイサービス・児童発達支援）：施設の特徴や多職種連携の実際を学ぶ 									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①：地域療養を支えるケア』臺有桂他編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②：在宅療養を支える技術』臺有桂他編、MCメディカ出版								
参考文献	『写真でわかる訪問看護』押川真喜子監修、インターメディアカ								
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照すること <担当者></p> <p>専任教員：高橋由美、小林淳子、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子 非常勤講師：江口美知子、赤間美恵子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師(病院等に5年以上勤務)として、さらに地域・在宅看護の実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びの統合を支援する

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-06			
		●	●	●	●				
科目名	成人看護学実習				単位 認定者	阿部 春美		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の 方法	
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間
						授業回数	集中		
授業の概要	手術や急性状態にある患者・家族を多面的に理解し対象のニーズを捉え、身体侵襲に伴う変化への対応と心身の回復および社会復帰への適応を支援する看護の役割を学び、成人看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	既修学修科目で積み重ねた学修を振り返り、目的・目標を意識しながら実習に臨むこと。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年5月13日（月）～11月8日（金） 1グループ:3週間</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院、東北大学病院</p> <p>III. 実習目的：健康問題や治療によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対し、成人看護学での既修内容を統合した看護実践能力を育成する。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。 <p>※主に外科的治療を受ける患者、身体侵襲が大きい検査等を受ける患者、慢性疾患の急性増悪の患者、呼吸循環状態が変化しやすい患者の看護について学修する。</p> <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1)成人看護学実習オリエンテーション 2)看護過程学習 3)看護技術学習： 実技、グループワーク、動画視聴を活用した自主学習支援 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1)学生1名で患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護を実践する。 2)実習目標到達に向けて、受け持ち患者の看護の方向性を把握し実施した援助を振り返るために、テーマを決めてカンファレンスを実施する。 3)受け持ち患者だけではなく、チームメンバーの受け持ち患者についても情報を共有しながら学びを深める。 									
教科書	『看護データブック』新井治子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術』野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、泉田さとみ、小倉真紀 非常勤講師 大石慶子、松田郷子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

成人領域の臨床経験のある教員が実習を担当する。手術または急性期にある成人とその家族の特徴を理解させ、個別の状況に応じた健康回復に必要な看護を教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-07			
		●	●	●	●				
科目名	老年看護学実習				単位 認定者	桑田 恵美子		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	
						授業時間数	120 時間		
				授業形態	実習	授業回数	集中		
授業の概要	医療と福祉の連携、および老年看護の役割について実践から学び、多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえて老年期の対象のニーズをとらえ、老年看護の実践能力を身につける。								
学修者への 期待等	老年期にある人々は、人生の最終段階を生きている。生病老死に関わる苦難に直面しながら、統合に向かって生きていく人であり、生涯発達する存在である。老年期にある人が自分らしくありのままの自分を受け入れ、生きる意味を見出すことができるよう支援者としての看護の役割を考えてほしい。高齢者一人ひとりとの出会いを大切にしてほしい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年5月13日（月）～11月1日（木） 1グループ：3週間</p> <p>II. 実習施設：JR仙台病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、JCHO仙台南病院、坂総合病院、東北医科薬科大学若林病院、JCHO仙台南病院介護老人保健施設</p> <p>III. 実習目的：様々な健康段階にある高齢者を対象に、医療と福祉の連携とその実際および老年看護の役割について実践から学ぶ</p> <p>IV. 実習目標</p> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 対象の状態を理解するために必要な身体的・精神的・社会的変化が理解できる 老年期の対象の特性や状態を理解し、根拠に基づき看護を計画的に実践できる 老年期の対象の多様な生活背景による価値観を尊重し、尊厳と権利を擁護するとともに、援助関係・信頼関係を形成できる 老年期の対象を取り巻く保健医療福祉における看護職ならびに関連職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続に必要な連携・協働について理解できる（退院支援・退院調整の実際） 自己の看護実践過程や方法を振り返り、自己の持つ課題、看護実践方法の改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する <p>【施設実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の目的・理念、機能、構造、事業概要、災害時の対応が理解できる 施設で療養生活を送る高齢者の健康面を身体、精神、社会的側面から理解できる 施設における療養生活の場に必要な支援が理解できる 高齢者・家族が望む生活を叶えるため、施設における関連職種の役割、協働・連携について理解できる 施設における地域の関係者との連携・協働について理解できる 施設実習を振り返り、自己の持つ課題、改善課題を整理し、専門職業人として成長し続ける態度を修得する <p>【老年看護学実習全体を通して】</p> <ol style="list-style-type: none"> 実習を通して自己の高齢者観、老年看護の役割を述べるができる <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 実習全体オリエンテーション 看護過程学習 介護老人保健施設実習に向けて特別講義 各サイクル実習終了後、まとめの会を開催する（日程については後日指示する） 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 病棟実習 介護老人保健施設実習 									
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害』堀井ふき他編集、MCメディア出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践』堀井ふき他編集、MCメディア出版								
参考文献	『日常生活における高齢者のヘルスアセスメント』 educational-video-online 丸善出版株式会社 『カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術』大塚真理子編著、医歯薬出版 『系統看護学講座 成人看護学1～11』（病態治療学Ⅰ～Ⅳの教科書） 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院 『手技と事例で学ぶ高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美著他、MCメディア出版								
備考	<p>詳細は後日配付する実習要項を参照</p> <p>担当者：専任教員 齋藤美華、桑田恵美子、菅原尚美 非常勤講師 高橋静子、遠藤理加 大石淳子、日野和基、高橋学（介護老人保健施設実習オリエンテーション）</p> <p>※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師として高齢者看護の実務経験をもとに、高齢者とその家族に対して老年看護の役割について理解が深められるよう指導する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-08				
		●	●	●	●					
科目名	小児看護学実習				単位認定者	武田 美奈子		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
					授業形態	実習	授業時間数	80 時間		
				授業回数			集中			
授業の概要	発達段階を踏まえ、人権を尊重した関わりができる態度を養うために、健康な小児や健康障がいを持つ小児およびその家族への看護の役割について学び、小児看護の実践能力を身につける。									
学修者への期待等	実習前に小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し、健康な子ども像・健康障がいをもつ子ども像を描き、必要な看護について学修し臨むこと。 保育所・外来・病棟実習と全てつながりのある実習なので、1つ1つ目標を意識した学びを積み重ねて欲しい。自己の体調管理にも十分努めること。									
授業計画										
<p>I. 実習期間：令和6年5月2日(木)～11月1日(金) 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：泉チェリーこども園、泉第2チェリーこども園、西多賀チェリーこども園 仙台赤十字病院、仙台市立病院、宮城県立こども病院、光ヶ丘スペルマン病院、JR仙台病院</p> <p>III. 実習目的：成長発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障がいの有無にかかわらず、よりよい成長発達をとげるための看護を実践する能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特性の理解に努め、人権を尊重した関わりができる。 2. 子どもの発達段階や健康状態に合わせた看護を考えることができる。 3. 子どもやその家族とコミュニケーションを図り、看護援助が実践できる。 <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習全体オリエンテーション 2) 看護過程学習 3) 看護技術学習 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所実習 2) 外来実習 3) 病棟実習 										
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院									
参考文献	『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦・柳沢正義監修、講談社 『発達段階からみた小児看護過程』石黒彩子・浅野みどり編、医学書院 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監、インターメディカ 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 学内カンファレンス・記録提出については教員の指示に従う 担当者：専任教員 武田美奈子、岡崎草代夏 非常勤講師 鹿野ひとみ、高橋あつ子、大石慶子 工藤俊平（実習オリエンテーション） ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業は、学修した小児看護の知識・技術・態度を実際に対象に合わせ実践する科目である。そのため教員は臨床実務経験を活かし、実践に即した教授を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-09			
		●	●	●	●				
科目名	母性看護学実習				単位認定者	佐藤 理恵		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間
							授業回数		集中
授業の概要	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、母子とその家族のニーズをとらえ妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の心身の変化を理解し看護の役割について学び、母性看護の実践能力を身につける。								
学修者への期待等	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を順調に経過するためには、看護者の的確な観察や習熟した看護技術の提供が必要とされる。母性看護学概論・母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱを復習し、知識と技術の再確認をして欲しい。また、日頃接する機会が少ない妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とするため、看護実践の機会を大切に積極的に実習に臨んで欲しい。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：令和6年5月2日（木）～11月8日（金） 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：坂総合病院、仙台市病院、仙台赤十字病院、東北公済病院、松島病院のびすく仙台</p> <p>III. 実習目的：妊娠・分娩・産褥・新生児期の心身の変化を理解し、対象に必要な看護を実践する能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、個別的な看護アセスメントを行い必要な看護ニーズを説明できる。 看護過程を通して、母性看護の対象を理解し、対象に必要なセルフケアを中心とした看護支援を実践することができる。 母子保健に関係する法規・制度を理解し、対象者に必要な社会資源の活用方法を説明できる。 看護実践を通して、母子保健・医療チームの一員としての役割を説明できる。 看護学生として責任ある行動を取り、主体的な実習態度である。 <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 看護過程学習 看護技術学習 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 機能別実習（産科外来・分娩室・褥室・新生児室での看護ケアの実際を学ぶ） 受け持ち実習（1組の母子を受け持ち、個別的な看護過程を展開する） 母子支援施設 									
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』森恵美他著、医学書院								
参考文献	『病気がみえるvol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』佐世正勝・石村由利子編、医学書院 『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』太田操編、医歯薬出版 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：田辺 圭子、佐藤 理恵、坂村 佐知 非常勤講師：畑中 晶子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

助産師（病院等5年以上勤務）としての実務経験を生かし、学修した母性看護の知識・技術を実践できるよう教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-10				
		●	●	●	●					
科目名	精神看護学実習				単位認定者	阿部 幹佳		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	多様な場、健康段階、発達段階及び倫理を踏まえ、精神疾患や障害を持つ対象のニーズをとらえ、精神疾患や障害を持つ対象との関わりを通してこころを病むということを理解し、対象に必要な看護の役割について学び、精神看護の実践能力を身につける。									
学修者への期待等	実習前に精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を復習し実習に臨むこと。積極的に対象者とかかわり、自分自身の気づきを通して対象者の理解ができるように努めること。									
授業計画										
<p>I. 実習期間：令和6年5月13日（月）～11月1日（金） 1グループ：2週間</p> <p>II. 実習施設：宮城県精神医療センター、東北会病院、せんだんホスピタル、青葉病院</p> <p>III. 実習目的：精神病院や精神保健医療福祉サービスを利用する対象者とかかわりを通して、こころを病むことを理解し、対象の抱える課題を共有する中で、必要と考えられる看護を実践できる基礎的な能力を身につける</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者とかかわりの中で、信頼関係を構築するための看護師－患者関係を考察できる 2. 様々な立場の人とかかわりにおいて生じる自分の気持ちを吟味し、自己理解を深める 3. 対象者を精神的、身体的、社会的な側面から理解し、対象者が抱えている課題をともに明らかにしていくことの重要性を考察できる 4. こころを病む人が地域で生活していく上で求められる看護職の役割を理解する 5. 看護職を目指す者として望ましい姿勢で実習に取り組むことができる <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習全体オリエンテーション 2) 実習施設についての事前学習 3) 実習の振り返りと課題整理 2. 臨地実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 患者を受け持ち、プロセスレコードを通して自分自身の対人関係の傾向について考察する (2) 患者の全体像をとらえ、患者に必要な援助を考えることができる 2) 地域生活支援実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象者の地域生活支援の実際から、地域で生活をしていく上で求められる看護職の役割を理解する 										
教科書	『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本』出口禎子編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践』出口禎子編、MCメディカ出版 『精神看護学実習ハンドブック』草地仁史他編、中央法規									
参考文献	『自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード』長谷川雅美・白波瀬裕美編、日総研 『精神看護学』田中美恵子編、医歯薬出版									
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者：専任教員 阿部幹佳、加藤真理子 非常勤講師 長橋美栄子、大曾根孝子、高橋あつ子 ※この科目は統合実習の履修要件として単位を修得していることが必須である									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師(病院等に5年以上勤務)としての資格、経験より、学生が精神障害者と関わり、実習目標が達成できるような環境を整え、教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CNP-11				
		●	●	●	●					
科目名	統合実習				単位認定者	阿部 春美		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	3 単位			
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間	
				授業回数			集中			
授業の概要	看護基礎教育の統合と卒後の応用のために、多様な実践の場で学んだ看護活動及び安全・看護管理の実際など踏まえ、チームの一員として協働して役割遂行できる実践能力を身につける。									
学修者への期待等	本学3年間の総まとめの実習です。これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場に近い体制の実習を通してチームの一員としての役割遂行をめざし、また将来のキャリアを見据えるための一助としていきましょう。									
授業計画										
<p>I. 実習期間：令和6年11月25日（月）～12月13日（金）</p> <p>II. 実習施設：東北医科薬科大学病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、JCHO仙台病院、坂総合病院</p> <p>III. 実習目的：保健・医療・福祉チームにおける看護職能の役割を認識し、看護マネジメント能力を養い、3年間で学修した看護の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力を身につける。</p> <p>IV. 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者2名を受け持ち、2名の看護過程を展開するとともに、患者の状況に応じた優先順位の判断や時間管理を適切に実施できる。 2. 看護チームのリーダーシップ・メンバーシップを理解し、チームの一員として責任ある行動ができる。 3. 災害対策や医療事故防止など医療現場における危機管理、実習病棟における看護管理について理解できる。 4. 保健・医療・福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解できる。 5. 日常生活援助技術や診療の補助技術に関する課題を明らかにし、技術の向上を図ることができる。 6. これまでの学修を振り返り、自己の看護観を深めることができる。 <p>V. 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習オリエンテーション 2) 統合実習のまとめ 2. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生5～6名で班を形成し、教員1名が担当 2) 実習指導は実習施設の実習指導者と担当教員が担う 3) 看護チームの中に入り、チームメンバーとして複数の患者を受け持つ 4) 看護チームの計画を反映させた看護実践を行う 5) カンファレンスを適宜行い、実習体験を帰納・演繹的に整理 										
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	随時紹介する									
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照</p> <p>担当者：専任教員 阿部春美、阿部幹佳、岡崎優子、泉田さとみ、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、竹田理恵、東海林美幸、二口尚美、小倉真紀</p> <p>非常勤講師 松田郷子、大石慶子、畑中晶子、菊池真紀子、江口美知子</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護職としての実務経験を有する教員が、既修の知識・技術と臨地実習による学びを統合できるよう教授する。

看護学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務経験を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

看護学科のナンバリングの見方（2023年度・2022年度入学生用）

【例】NS-1-○○○-01

NS	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

看護学科：NS

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎分野：1

専門分野：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
人体の構造と機能	HAP	Human Anatomy and Physiology
疾病の成り立ちと回復の促進	PRD	Pathogenesis and Recovery of Disease
健康支援と社会保障制度	HSS	Health support and Social Security System
基礎看護学	FNS	Fundamental Nursing
地域・在宅看護論	CHN	Community Health and Home Care Nursing
領域横断看護	INS	Interdisciplinary Nursing
成人看護学	ANS	Adult Nursing
老年看護学	GNS	Gerontological Nursing
小児看護学	CHN	Child Health Nursing
母性看護学	WHN	Women's Health Nursing

精神看護学	PMN	Psychiatric and Mental Health Nursing
看護の統合と実践	NIP	Nursing Integration and Practice
臨地実習	CNP	Clinical Nursing Practicums

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		英語	CO-0-HCU-02	
		哲学入門	NS-0-HCU-01	
	人間と社会	現代の社会	CO-0-HSO-03	
		法律入門	CO-0-HSO-04	
		生涯学習論	NS-0-HSO-01	
		心理学概論	NS-0-HSO-02	
		家族社会学	NS-0-HSO-03	
	人間と科学	情報処理	CO-0-HSC-01	
		自然科学入門	NS-0-HSC-01	
		数理リテラシー	NS-0-HSC-02	
		健康スポーツ科学	NS-0-HSC-03	
専門教育分野	専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造と機能Ⅰ	NS-1-HAP-01
			人体構造と機能Ⅱ	NS-1-HAP-02
			人体構造と機能Ⅲ	NS-1-HAP-03
			人体構造と機能Ⅳ	NS-1-HAP-04
			生化学	NS-1-HAP-05
			微生物学	NS-1-HAP-06
			栄養学	NS-1-HAP-07
	専門応用分野	病理学	NS-1-PRD-01	
		病態治療学Ⅰ（検査・治療）	NS-1-PRD-02	

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学Ⅱ（循環器）	NS-1-PRD-03	
		病態治療学Ⅲ（消化器）	NS-1-PRD-04	
		病態治療学Ⅳ（内分泌、泌尿・生殖器）	NS-1-PRD-05	
		病態治療学Ⅴ（運動器、中枢・末梢神経）	NS-1-PRD-06	
		病態治療学Ⅵ（血液・造血器・免疫）	NS-1-PRD-07	
		病態治療学Ⅶ（呼吸器、感覚器）	NS-1-PRD-08	
		看護薬理学	NS-1-PRD-09	
	健康支援と社会保障制度	生命科学と医療倫理	NS-1-HSS-01	
		人間関係論	NS-1-HSS-02	
		保健行動学	NS-1-HSS-03	
		公衆衛生学	NS-1-HSS-04	
		保健医療福祉サービス論	NS-1-HSS-05	
		チーム医療論	NS-1-HSS-06	
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	NS-2-FNS-01
			看護倫理	NS-2-FNS-02
			基礎看護技術Ⅰ	NS-2-FNS-03
			基礎看護技術Ⅱ	NS-2-FNS-04
			基礎看護技術Ⅲ	NS-2-FNS-05
			基礎看護技術Ⅳ	NS-2-FNS-06
		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	NS-2-CHN-01
			地域・在宅看護援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
地域・在宅看護概論Ⅱ			NS-2-CHN-03	
地域・在宅看護援助論Ⅱ			NS-2-CHN-04	
領域横断看護		看護展開論Ⅰ	NS-2-INS-01	
		看護展開論Ⅱ	NS-2-INS-02	
		看護展開論Ⅲ	NS-2-INS-03	
		健康状態別看護Ⅰ	NS-2-INS-04	
		健康状態別看護Ⅱ	NS-2-INS-05	
		健康状態別看護Ⅲ	NS-2-INS-06	
成人看護学		成人看護学概論	NS-2-ANS-01	
		成人看護学援助論Ⅰ	NS-2-ANS-02	
		成人看護学援助論Ⅱ	NS-2-ANS-03	
老年看護学		老年看護学概論	NS-2-GNS-01	
		老年看護学援助論Ⅰ	NS-2-GNS-02	

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
	小児看護学	老年看護学援助論Ⅱ	NS-2-GNS-03
		小児看護学概論	NS-2-CHN-01
		小児看護学援助論Ⅰ	NS-2-CHN-02
	母性看護学	小児看護学援助論Ⅱ	NS-2-CHN-03
		母性看護学概論	NS-2-WHN-01
		母性看護学援助論Ⅰ	NS-2-WHN-02
	精神看護学	母性看護学援助論Ⅱ	NS-2-WHN-03
		精神看護学概論	NS-2-PMN-01
		精神看護学援助論Ⅰ	NS-2-PMN-02
	看護の統合と 実践	精神看護学援助論Ⅱ	NS-2-PMN-03
		医療安全管理論	NS-2-NIP-01
		災害看護	NS-2-NIP-02
		看護管理論・国際看護	NS-2-NIP-03
		看護研究Ⅰ	NS-2-NIP-04
	臨地実習	看護研究Ⅱ	NS-2-NIP-05
		基礎看護学実習Ⅰ	NS-2-CNP-01
		基礎看護学実習Ⅱ	NS-2-CNP-02
		地域・在宅看護論実習Ⅰ	NS-2-CNP-03
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	NS-2-CNP-04
		領域横断看護実習	NS-2-CNP-05
		成人看護学実習	NS-2-CNP-06
老年看護学実習		NS-2-CNP-07	
小児看護学実習		NS-2-CNP-08	
母性看護学実習		NS-2-CNP-09	
精神看護学実習		NS-2-CNP-10	
統合実習	NS-2-CNP-11		

看護学科 教員一覧

	氏名	E-mail
1	あべ はるみ 阿部 春美	h_abe@seiyogakuin. ac. jp
2	あべ みきか 阿部 幹佳	mk_abe@seiyogakuin. ac. jp
3	いずみだ さとみ 泉田 さとみ	s_izumida@seiyogakuin. ac. jp
4	いとう まりこ 伊藤 茉莉子	ma_itou@seiyogakuin. ac. jp
5	いわま まきのり 岩間 正典	m_iwama@seiyogakuin. ac. jp
6	えんどう みほこ 遠藤 美穂子	m_endou@seiyogakuin. ac. jp
7	おかざき そとか 岡崎 章代夏	s_okazaki@seiyogakuin. ac. jp
8	おかざき ゆうこ 岡崎 優子	y_okazaki@seiyogakuin. ac. jp
9	おぐら まき 小倉 真紀	m_ogura@seiyogakuin. ac. jp
10	かとう まりこ 加藤 真理子	m_kato@seiyogakuin. ac. jp
11	きのした みさ子 木下 美佐子	m_kinoshita@seiyogakuin. ac. jp
12	くわた えみこ 桑田 恵美子	e_kuwata@seiyogakuin. ac. jp
13	こばやし あつこ 小林 淳子	a_kobayashi@seiyogakuin. ac. jp
14	さいとう みか 齋藤 美華	m_saito@seiyogakuin. ac. jp
15	さかむら さち 坂村 佐知	s_sakamura@seiyogakuin. ac. jp
16	ささき しげのり 佐々木 重徳	s_sasaki@seiyogakuin. ac. jp
17	さとう きよこ 佐藤 清湖	k_satou@seiyogakuin. ac. jp
18	さとう ゆきこ 佐藤 幸子	yu_sato@seiyogakuin. ac. jp
19	さとう ゆきこ 佐藤 由記子	yk_satou@seiyogakuin. ac. jp
20	さとう りえ 佐藤 理恵	r_satou@seiyogakuin. ac. jp
21	すえなが くに 末永 カツ子	k_suenaga@seiyogakuin. ac. jp
22	すがわら なおみ 菅原 尚美	n_sugawara@seiyogakuin. ac. jp
23	たかはし ゆみ 高橋 由美	y_takahashi@seiyogakuin. ac. jp
24	たけだ みなこ 武田 美奈子	m_takeda@seiyogakuin. ac. jp
25	たけだ りえ 竹田 理恵	r_takeda@seiyogakuin. ac. jp
26	たなべ けいこ 田辺 圭子	k_tanabe@seiyogakuin. ac. jp
27	たばやし こういち 田林 暁一	k_tabayashi@seiyogakuin. ac. jp
28	てづか ゆきこ 手塚 有希子	y_teduka@seiyogakuin. ac. jp
29	とうかいりん みゆき 東海林 美幸	m_toukairin@seiyogakuin. ac. jp
30	ふたくち ひさみ 二口 尚美	h_futakuchi@seiyogakuin. ac. jp
31	まさめ けん 真覚 健	k_masame@seiyogakuin. ac. jp
32	またに じゅんこ 真溪 淳子	j_matani@seiyogakuin. ac. jp

(添付書類 ii) 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画 (シラバス)

看護学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
法律入門	2	鈴木翔太	公認会計士の実務経験あり
病態治療学Ⅴ (運動器、中枢・末梢神経)	1	平山和美 佐野徳久	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅵ (血液・造血器・免疫)	1	田林暁一	医師の実務経験あり
病態治療学Ⅶ (呼吸器、感覚器)	1	田林暁一	医師の実務経験あり
保健医療福祉サービス論	1	末永カツ子	保健師の実務経験あり
チーム医療論	1	阿部春美 桑田恵美子	看護師の実務経験あり
地域・在宅看護援助論Ⅰ	2	小林淳子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	高橋由美	看護師の実務経験あり
地域・在宅看護援助論Ⅱ	2	高橋由美	看護師の実務経験あり
看護展開論Ⅰ	1	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
看護展開論Ⅱ	2	遠藤美穂子	看護師の実務経験あり
看護展開論Ⅲ	2	阿部春美	看護師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅱ	2	伊藤茉莉子	看護師の実務経験あり
健康状態別看護Ⅲ	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
成人看護学援助論Ⅰ	2	岡崎優子	看護師の実務経験あり
成人看護学援助論Ⅱ	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
老年看護学援助論Ⅰ	1	齋藤美華	看護師の実務経験あり
老年看護学援助論Ⅱ	1	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
小児看護学援助論Ⅰ	1	佐藤幸子	看護師の実務経験あり
小児看護学援助論Ⅱ	1	武田美奈子 岡崎草代夏	看護師の実務経験あり
母性看護学援助論Ⅰ	1	田辺圭子	助産師の実務経験あり
母性看護学援助論Ⅱ	1	佐藤理恵 坂村佐知	助産師の実務経験あり
精神看護学援助論Ⅰ	1	濱崎諒介 阿部幹佳	医師、看護師の実務経験あり
精神看護学援助論Ⅱ	1	阿部幹佳	看護師の実務経験あり
医療安全管理論	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
災害看護	1	高橋由美 泉田さとみ	看護師の実務経験あり
看護研究Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
領域横断看護実習	3	岡崎優子	看護師の実務経験あり
看護管理論・国際看護	1	阿部春美	看護師の実務経験あり
看護研究Ⅱ	1	小林淳子	保健師の実務経験あり
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	高橋由美	看護師の実務経験あり
成人看護学実習	3	阿部春美	看護師の実務経験あり
老年看護学実習	3	桑田恵美子	看護師の実務経験あり
小児看護学実習	2	武田美奈子	看護師の実務経験あり
母性看護学実習	2	佐藤理恵	助産師の実務経験あり
精神看護学実習	2	阿部幹佳	看護師の実務経験あり
統合実習	3	阿部春美	看護師の実務経験あり
	58	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	

2024（令和6）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。